

令和7年度 入学生

看護学科

履 修 の 手 引

(シラバス)



学校法人 南学園
鹿児島医療福祉専門学校

目 次

カリキュラム概要

1. 建学の理念・教育理念・・・・・・・・・・ 1
2. 教育目的・教育目標・卒業生が備えるべき特性・・ 2
3. 学年別教育目標・・・・・・・・・・ 3
4. 教育課程の考え方について・・・・・・・・ 4
5. カリキュラム編成にあたっての基本概念・・・・・・・・ 5
6. 学習者と主要概念との関係・・・・・・・・ 6
7. 本校の看護基礎教育の考え方・・・・・・・・ 7

授業計画

1. シラバスの活用にあたって・・・・・・・・ 8
2. 授業科目及び担当講師一覧表・・・・・・・・ 9～10
3. 年間の教育計画・・・・・・・・・・ 11
4. 基礎分野・・・・・・・・・・ 12～27
5. 専門基礎分野・・・・・・・・・・ 28～48
6. 専門分野・・・・・・・・・・ 49～104

カリキュラム概要

〔 建 学 の 理 念 〕

真 愛

愛はすべての根源、常に心にまことの愛を問い、探し求めながら、自己を磨き、高め、実践していく姿である。

まことの愛の本質は自己を愛するように他者を愛する自他一如の境地に達することからはじまる。その中から真の思いやりが生まれ、代償を求めない価値が芽生える。

教職員も学生も真愛を求めて研鑽することに意味がある。

〔 教 育 理 念 〕

南学園の建学の理念は、創立者の南クワによって掲げられた「真愛」である。

看護学科は生命の尊重と人間愛を基盤に、感性豊かな人間性を培い、自己と共に他者をも大切にする「真愛」の心と態度を養う教育を行う。

看護は対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在としてとらえ、確固たる倫理観に基づき、あらゆる発達段階、健康状態にある人々に対し、その人らしく日常生活を営めるように援助することである。

この考えに基づき、学生は看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を修得し、科学的思考力と判断力を身につけ、専門職業人として常に自己研鑽に努めながら能力の開発を目指す。学生と教員は相互作用の中で共に育つ関係を保ちながら、学生が主体的に知識を獲得できるよう教員は教授し、学習への動機付けを支援する。

本校看護学科における看護基礎教育の目標は、地域社会に貢献しうる豊かな人間性と看護に関する幅広い能力を備えた看護の実践者を育成することにある。看護は、人々があらゆる健康レベルに応じた健康上の課題に対応できるように支援することである。複雑な要因に影響される健康問題は、総合保健医療福祉活動として包括的、組織的に取り組むようになってきている。この保健医療福祉活動の一環を担う看護の機能は、個人のみならず、家族、集団、地域社会へのアプローチへと拡大するとともに、より専門的な実践が期待されている。

したがって、看護基礎教育修了時には、保健医療福祉チームの一員として、個人を尊重した看護を実践できる基礎的能力を有し、将来、看護の発展に貢献できる人材の育成を目指すものである。

〔 教 育 目 的 〕

看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の社会的ニーズの変化に対応して社会に貢献できる人間性豊かな看護実践者を育成する。

〔 教 育 目 標 〕

1. 看護の対象である人間を総合的に捉え、生活者として理解できる能力を養う。
2. 生命を尊び、人間愛を基盤とした人格を尊重する態度を身につける。
3. 人間の健康と生活の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につける。
4. 保健・医療・福祉における其々の制度と他職種の役割を理解し、保健医療福祉チームの一員として協働し、チームを調整できる基礎的能力を養う。
5. 社会の動向とニーズを見極め、看護の方向性について自ら考え取り組む姿勢を身につける。
6. 専門職業人として常に向学心をもって自己研鑽し、看護を探究する姿勢を培い、自己の看護観を深める。

〔卒業生が備えるべき特性〕

1. 人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された個人として理解することができる。
2. 自己を愛するように他者を思いやり、相互に尊敬しあう心を持ち、よい人間関係を築くことができる。
3. 科学的根拠に基づいた臨床判断力を身につけ、最善の方法を用い看護実践することができる。
4. 看護実践に必要な基礎的知識、技術を習得することができる。
5. 地域包括ケアシステムの実現に向けて、チームの一員として看護の役割と機能を認識し、多職種と連携・協働することができる。
6. 社会の動向に関心を持ち、保健医療福祉のニーズに柔軟に対応することができる。
7. 専門職業人としての倫理感を持ち、自律した行動をとることができる。
8. 自己の看護観を明確にし、看護の向上をめざして、自ら学び続けることができる。

〔 学 年 別 教 育 目 標 〕

教育目標	1年次目標	2年次目標	3年次目標
1. 看護の対象である人間を総合的に捉え、生活者として理解できる能力を養う。	1) 人間は身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在であることを理解できる。	1) 人間は成長発達している存在であることを理解できる。	1) 人間は社会の中で役割を持ちながら自己実現を目指す存在であることを理解できる。
2. 生命を尊び、人間愛を基盤とした人格を尊重する態度を身につける。	1) 他者との関係の中で、自己を見つめ、自己のメンタルヘルスを向上することの必要性と方法がわかる。 2) 生命の尊さや倫理を知ることができる。	1) メンタルヘルスの重要性を理解することができる。 2) 個々の人格を尊重し他者を受容することができる。	1) メンタルヘルスケアの理解を深めることができる。 2) 生命についての諸問題を理解し、人間に対する尊厳の気持ちを深めることができる。
3. 人間の健康と生活の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につける。	1) 基礎看護技術(知識・技術・態度)を習得し、日常生活の援助を実践することができる。	1) 科学的根拠・理論に基づいた看護の知識と技術を学ぶことができる。 2) 看護の対象に対して、科学的問題解決方法を用い、看護を実践する基礎的能力を修得することができる。	1) 科学的根拠理論に基づいた看護の知識と技術を深めることができる。 2) 対象の課題に応じて、科学的問題解決方法を用いた、看護を実践することができる。
4. 保健・医療・福祉における其々の制度と他職種役割を理解し、保健医療福祉チームの一員として協働し、チームを調整できる基礎的能力を養う。	1) 人々の健康の維持増進、問題解決に、保健・医療・福祉が重要な役割を担っていることを理解できる。	1) 看護実践を通して、保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し、専門職業人として自覚することができる。	1) 保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、調整的役割の重要性を理解することができる。
5. 社会の動向とニーズを見極め、看護の方向性について自ら考え取り組む姿勢を身につける。	1) 社会情勢に関心を持ち、異なる文化や価値観の存在を知ることができる。	1) 看護を取り巻く世界動向、法律施策、政治情勢に常に関心を持ち看護の役割を知ることができる。	1) 国際性豊かな感覚を持ち、社会の変化に対応できる能力を身につけることができる。 2) 災害時に支援できる看護の基礎的知識・技術について理解することができる。
6. 専門職業人として常に向学心をもって自己研鑽し、看護を探究する姿勢を培い、自己の看護観を深める。	1) 看護の主要概念について学習し、看護の概要を理解ができる。 2) 学習及び課外活動等を通して、自ら積極的に学習課題に取り組むことができる。	1) 看護の実践過程を考察し、看護に対する考え方を深めることができる。 2) 目的・問題意識を持って、自己を高めるための学習方法を修得し、主体的に学習することができる。	1) 自己の課題について、自己洞察することができる。 2) 実践した看護を文献を活用して考察を深め、自己の看護観を明確にすることができる。 3) 看護を探究する姿勢を持ち、研究することができる。

〔 教育課程の考え方について 〕

本校看護教育の理念は、生命の尊重と人間愛を基盤に、感性豊かな人間性を培い、自己と共に他者を大切にする「真愛」の心と態度を養う教育を行うことを目的としている。

看護においては、人間の「生と死」に直面するため、対象となる人との関係が特に重視される。看護の担い手には、生涯を通じた人々の人間らしい生き方を援助する上で、「その人らしさ」を尊重する視点と豊かな人間性が必要である。看護基礎教育の3年間で、実践活動に必要な理論と根拠及び人々が健康的な生活を営めるように支援する方法を学ぶ。

基礎分野では、人間の内面性を理解する態度を身につけ、さらに人間が創りだした文化、慣習等を通して、身体的・精神的・社会的存在である人間を多面的に理解できるように科目を構成している。近年、保健・医療・福祉分野においても情報化は急速に進展しており、「看護情報学」では、情報処理にかかわる理論と技術の基礎を学び、その活用能力を高める。また、情報を看護の実践や研究に活かすため、統計的な処理等についても学べるように内容を構成している。

専門基礎分野の人体の構造と機能では、解剖生理学で学んだ知識をもとに、人はどのように身体を使って日常生活を営んでいるのかを「形態機能学」で学び、生活援助論の展開につなげていくよう構成されている。また、疾病の成り立ちと回復の促進・健康支援と社会保障制度では、看護をとりまく社会の変化や保健・医療・福祉と看護の関連性、多職種との連携・協働などを考えながら看護を実践していく方法を学ぶ。

専門分野では、基礎看護学において「ヘルスアセスメント論」「生活援助論」「人間関係成立の技術」等の科目を設定し、看護専門職者としての基礎的な能力や総合的看護実践能力育成の基盤となる学習として位置づけている。地域・在宅看護論では「家族看護学」や「暮らしを支える看護」を配置し、家族成員も含めた看護の役割を学び、療養者が在宅でその人らしく生活し最期を全うできる援助について学習する。さらに多職種と連携・協働する中で看護の役割を理解できるような構成にしている。成人・老年・母性・小児・精神看護学では、人間の様々なライフステージにおける健康・疾病・心理面の課題を理解し、必要とされる援助のあり方を学べるよう構築している。「看護の統合と実践」の科目では、「看護管理と医療安全」「災害看護」について学習し、組織における看護師の役割を理解するとともに、より臨床に近い環境での学習を充実させ、緊急要件・災害発生時に適切な判断と対応ができるよう演習を強化する内容とした。また社会の多様なニーズに応え、広い視野で新たな看護の視点や方法を見出し自己の能力開発システムを構築できるように「キャリア論」を1年次から段階的に組み込んでいる。看護職者として自身の将来を見据えて、知識や技術の統合とキャリア開発していく姿勢や研究能力を身につけ、生涯にわたり看護学を体系化し発展させることに貢献できる看護師を育成するカリキュラムとしている。

臨地実習では、様々な場所で、ライフステージや健康レベルの異なる対象と向き合うことにより、主体的に学び続ける態度を養い、看護実践能力を高めることができるように1年次から3年次の各年次に分けて行う。対象とのコミュニケーションや看護師との関わりを通して、療養生活や看護活動の実際を知り、看護師の役割について考え自己の課題を明確にしていく。さらに、健康課題を持つ対象者の個性に合わせた日常生活援助を計画・実施する能力を養うため、日常生活援助に関わりながら対象理解を深め実践力を高めていけるようにしたい。

以上、本校のカリキュラムは概念や理論などは早い時期に講義を行い、臨地実習で体験を通して学ぶ。その体験を踏まえ、さらに知識の定着を図るという過程を経ることで教育効果を高めることができると考え、積み上げ型のカリキュラムデザインとしている。

〔カリキュラム編成にあたっての基本概念〕

《人間》・一人一人がかけがえのない存在である。

- ・身体的・精神的・社会的・霊的側面を持った統合体であり、生活している存在である。
- ・環境（自然・社会・文化的環境）との相互作用により、絶えず変化している存在である。
- ・胎生期から老年期そして死に至るまで成長・発達し続ける存在である。
- ・多様な価値観や信念をもつ存在である。
- ・基本的欲求をもち、自己実現に向けて生きる存在である。
- ・他者との関わりを持ちながら、社会を構成している存在である。

《環境》・人間を取り巻き、その存在や生活に関わるすべてのものである。

- ・内部環境と外部環境により形成されており、相互に影響している。
- ・人間に直接的・間接的に作用し、影響を与える。

《健康》・身体的・精神的・社会的・霊的にバランスの取れた状態である。

- ・自分の人生をよりよく生きるための基本的権利である。
- ・連続的・流動的な現象である。
- ・健康レベルは、個人の生活に影響を与えるものである。

《看護》・あらゆる成長・発達段階および健康レベルにある個人・家族・集団・社会を対象とする。

- ・対象が望む健康の保持・増進・疾病の予防、健康の回復、苦痛の軽減を図る活動である。
- ・自然回復力を助け、その人らしく自立した生活が送れるよう関わる活動である。
- ・対象との人間関係を基盤とし、個人の信念・価値観を尊重する活動である。
- ・専門職としての倫理観を持ち、生命を守る活動である。
- ・保健医療福祉チームの一員として協働し、調整を担う。
- ・看護学を追求する活動である。

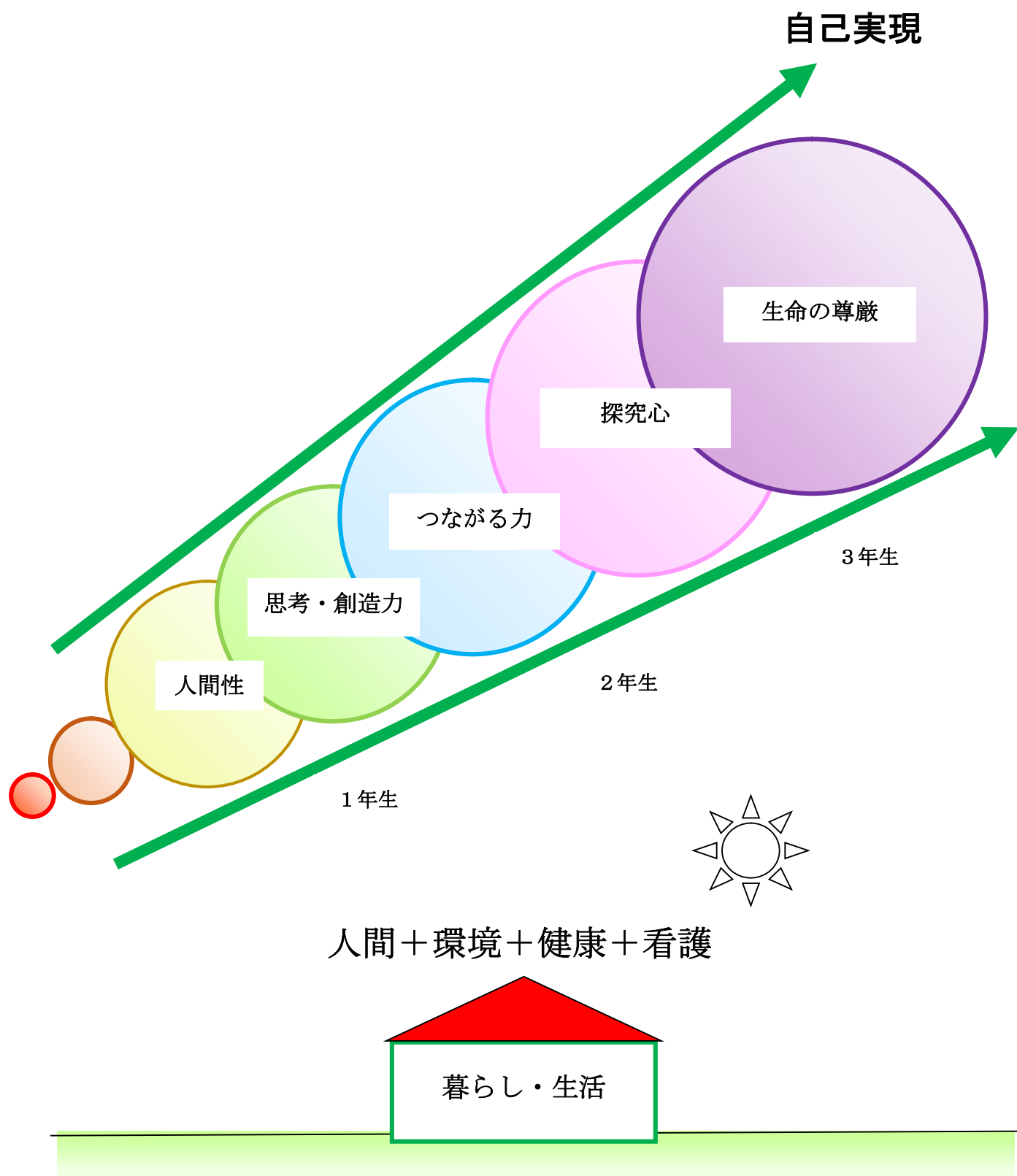
《生活》・健康を基盤として日常の営みのなかで生存して活動することで成り立つものである。

その健康は環境に影響を受けるものであり、環境は人間の存在や生活に関わるものである。また、その人がよりよく生きていくことを支援するのが看護である。そのように考えると生活は、看護の概念である人間・環境・健康・看護に包含される。

《暮らし》・生活を含む概念であり、人々の生き方、ライフスタイルなどを広く含むものである。

- ・人と人が繋がって生きることであり、家族・仲間・近所の人々と支え合い生きることである。
- ・地域の生活環境（文化的・社会的・自然環境など）が健康に影響を与える。

〔 学習者と主要概念との関係 〕



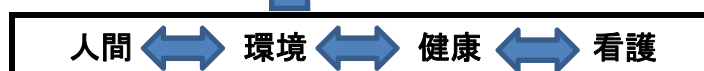
学習とは、主体的に学ぶことであり、周囲の環境（人的・物的）の影響を受けながら、自己実現を目指して成長していく過程である。

〔本校の看護基礎教育の考え方〕

専門分野 67単位	統合実習(3)					
	地域・在宅 看護論実習 Ⅰ・Ⅱ(2)	成人・老年 看護学実習Ⅰ (2)	成人・老年 看護学実習 Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (6)	精神看護学 実習(2)	小児看護学 実習(2)	母性看護学 実習(2)
	基礎看護学実習Ⅰ(2)・基礎看護学実習Ⅱ(2)					
	看護の統合と実践(5) 看護管理と医療安全(1) 国際看護と災害看護(1) キャリア論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(3)					
	成人看護学(6) 成人看護学概論(1) 成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(3)	老年看護学(4) 老年看護学概論(1) 老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ (2)	小児看護学(4) 小児看護学概論(1) 小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ (2)	母性看護学(4) 母性看護学概論(1) 母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ (2)	精神看護学(4) 精神看護学概論(1) 精神看護援助論Ⅰ・Ⅱ (2)	
	成人健康状態別看護Ⅰ・Ⅱ (2)	老年健康状態 別看護(1)	小児健康状態 別看護(1)	母性健康状態 別看護(1)	精神健康状態 別看護(1)	
	地域・在宅看護論(6) 地域・在宅看護論概論(1) 地域と暮らし(1) 家族看護学(1) 暮らしを支える看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(3)					
	基礎看護学(11) 基礎看護学概論(1) ヘルスアセスメント論(1) 生活援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(4) 人間関係成立の技術(1) 看護倫理(1) 診療の補助技術論(1) 共通基本技術演習(1) 健康回復支援論(1)					

専門基礎分野 23単位	人体の構造と機能 (8単位)	疾病の成り立ちと 回復の促進(9単位)	健康支援と社会保障制度 (6単位)
	解剖生理学Ⅰ(2) 解剖生理学Ⅱ(2) 形態機能学Ⅰ・Ⅱ(2) 生化学(1) 栄養学(1)	微生物学(1) 病態生理学(1) 臨床薬理学(1) 疾病と治療Ⅰ(1) 疾病と治療Ⅱ(1) 疾病と治療Ⅲ(1) 疾病と治療Ⅳ(1) 疾病と治療Ⅴ(1) 疾病と治療Ⅵ(1)	医療概論(1) 公衆衛生Ⅰ・Ⅱ(2) 社会保障・社会福祉(1) 看護関係法令Ⅰ・Ⅱ(2)

基礎分野 14単位	科学的思考の基盤(7単位)	人間と生活・社会の理解(7単位)
	論理学(1) 教育学(1) 看護情報学(1) 心理学(1) 人間工学(1) 看護と生物学(1) 看護と化学(1)	倫理学(1) 社会学(1) 看護における人類学(1) 人間関係論(1) 生活科学(衣・食・住)(1) 看護英語(1) 健康とスポーツ(1)



成長発達・キャリア形成

授 業 計 画

シラバスの活用にあたって

シラバス(syllabus)は、授業の目標と内容及び方法等をわかりやすく説明し、学生の学習意欲の向上と学習効果を高めるために作成されたものです。これを参考に授業全体の展開を把握し自主的に勉学に活用して欲しいと思います。

シラバスを活用するにあたっては学生便覧に記載してある教育課程及び履修方法もよく読んでおく必要があります。

このシラバスは、学生と教員の活発な意見の交換を行い自己点検・評価を交えながら年々改善し充実させていく予定です。又、教員の間では、相互に授業内容を理解し合い、系統的で効果的な授業が行えるものと期待します。

授業計画記載事項の概要

1. 構成は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野となっています。
2. 授業科目名、対象学生、単位の区分は、学生便覧の教育課程表に合わせて記載してあります。
3. 担当講師名は、授業計画の総括者及び分担者を記載してあります。
4. 授業計画は、一科目一頁であるが、2頁以上にわたるものもあります。
5. 学習内容は、大まかな授業内容と進行を示しています。
6. 学年別授業時数（臨地実習時間含むが、実習内容は臨地実習要項による）

	教科単位（時間）	実習単位（時間）	年間履修単位（時間）
1 年次	43 (1,095)	2 (75)	45 (1,170)
2 年次	29 (800)	7 (315)	36 (1,115)
3 年次	9 (240)	14 (585)	23 (825)
合計	81 (2,135)	23 (975)	104 (3,110)

※分りにくい点や疑問点は、直接担当講師にたずねてください。

授業科目及び担当講師一覧表

令和7年度

区分	教科	科 目		単位(時間数)	回数	学年	時期	担当講師	頁
基礎分野	科学的思考の基盤 7単位	論 理 学		1 (30)	15	1学年	前期	原田 義則	12
		教 育 学		1 (30)	15	1学年	後期	帖佐 尚人	13
		看 護 情 報 学		1 (30)	15	1学年	通年	大野 隆士	14
		心 理 学		1 (30)	15	1学年	前期	大島 英世	15
		人 間 工 学		1 (15)	8	1学年	後期	岡村 俊彦	16
		看 護 と 生 物 学		1 (15)	8	1学年	前期	上水樽 豊己	17
		看 護 と 化 学		1 (15)	8	1学年	前期	黒木 幹博	18
	人間と生活・社会の理解 7単位	倫 理 学		1 (15)	8	1学年	前期	杉山 和之	19
		社 会 学		1 (30)	15	1学年	前期	佐野 正彦	20
		看 護 に お け る 人 類 学		1 (15)	8	1学年	前期	森田 清美	21
		人 間 関 係 論		1 (30)	15	1学年	後期	神菌 紀幸	22
		生 活 科 学	衣	1 (30)	15	1学年	前期	坂上 ちえ子	23
			食			1学年	前期	有村 恵美	
			住			1学年	前期	宍戸 克実	
		看 護 英 語		1 (30)	15	1学年	通年	ストックデイル・デビッド・アシュレイ	24
	健 康 と ス ポ ー ツ		1 (30)	15	1学年	後期	高岡 綾子	25	
総 計				14(345)	1年次 14 (345) 2年次 0 (0) 3年次 0 (0)				

区分	教科	科 目		単位(時間数)	回数	学年	時期	担当講師	頁
専門基礎分野	人体の構造と機能 8単位	解剖生理学Ⅰ		2 (60)	30	1学年	通年	吉家 清貴	26
		解剖生理学Ⅱ		2 (60)	30	1学年	通年	山口 孝二郎	27
		形態機能学Ⅰ		1 (15)	8	1学年	前期	専任教員・國生洋子	28
		形態機能学Ⅱ		1 (15)	8	1学年	前期	専任教員	29
		生 化 学		1 (30)	15	1学年	通年	古川 龍彦	30
		栄 養 学		1 (30)	15	1学年	後期	西村 和子	31
	疾病の成り立ちと回復の促進 9単位	微 生 物 学		1 (30)	15	1学年	前期	杉原 一正	32
		病 態 生 理 学		1 (30)	15	1学年	後期	徳留 京子	33
		臨 床 薬 理 学		1 (30)	15	1学年	後期	木下 力	34
		疾 病 療 養Ⅰ	循 環 器 系	1 (30)	8	2学年	通年	吉家 清貴	35
			呼 吸 器 系		8	2学年	通年	吉家 清貴	
		疾 病 療 養Ⅱ	造 血 器 系	1 (30)	8	2学年	通年	吉家 清貴	36
			消 化 器 系		8	2学年	通年	吉永あゆみ	
		疾 病 療 養Ⅲ	運 動 器 系	1 (30)	8	2学年	通年	菊野竜一郎	37
			脳 神 経 系		8	2学年	通年	杉原 一正	
		疾 病 療 養Ⅳ	内 分 泌 ・ 代 謝 系	1 (30)	8	2学年	通年	植村 和代	38
			感 覚 器 系		8	2学年	通年	徳留京子、芹澤慎生、米倉慎太郎	
		疾 病 と 治 療Ⅴ	小 児	1 (30)	15	2学年	通年	久米 浩二、専任教員	39
		疾 病 療 養Ⅵ	女 性 生 殖 器 系	1 (30)	8	2学年	通年	専任教員	40
			腎 ・ 泌 尿 器 系		8	2学年	通年	内田 洋介	
	健康支援と社会保障制度 6単位	医 療 概 論		1 (15)	8	1学年	後期	吉家 清貴	41
		公 衆 衛 生Ⅰ		1 (15)	8	1学年	前期	安藤 哲夫	42
		公 衆 衛 生Ⅱ		1 (15)	8	1学年	後期	安藤 哲夫	43
		社 会 保 障 ・ 社 会 福 祉		1 (30)	15	2学年	通年	久留須直也	44
		看 護 関 係 法 令Ⅰ		1 (15)	8	3学年	後期	田畑 千穂子	45
		看 護 関 係 法 令Ⅱ		1 (15)	8	3学年	後期	専任教員	46
総 計				23 (585)	1年次 14 (345) 2年次 7 (210) 3年次 2 (30)				

授業科目及び担当講師一覧表

区分	教科	科 目	単位(時間数)	回数	学年	時期	担当講師	頁
	基礎看護学 11単位	基礎看護学概論	1 (30)	15	1学年	前期	専任教員	47
		ヘルスアセスメント論	1 (30)	15	1学年	通年	専任教員	48
		生活援助論Ⅰ	1 (30)	15	1学年	通年	専任教員	49
		生活援助論Ⅱ	1 (30)	15	1学年	通年	専任教員	50
		生活援助論Ⅲ	1 (30)	15	1学年	通年	専任教員	51
		生活援助論Ⅳ	1 (30)	15	1学年	通年	専任教員	52
		人間関係成立の技術	1 (30)	15	1学年	通年	大田 真司, 専任教員	53
		看護倫理	1 (20)	10	2学年	前期	専任教員	54
		診療の補助技術論	1 (30)	15	2学年	通年	専任教員	55
		共通基本技術演習	1 (30)	15	2学年	通年	専任教員	56
臨地実習	健康回復支援論	1 (30)	15	1学年	通年	専任教員	57	
	基礎看護学実習Ⅰ	2 (75)		1学年	前期	専任教員	58	
	基礎看護学実習Ⅱ	2 (90)		2学年	後期	専任教員	59	
小 計			15 (485)	1年次 10 (315) 2年次 5 (170) 3年次 0 (0)				
地域・在宅 看護論 6単位	地域・在宅看護論概論	1 (30)	15	1学年	後期	専任教員・田代 夏子	60	
	地域と暮らし	1 (15)	8	2学年	前期	専任教員	61	
	家族看護学	1 (15)	8	2学年	通年	末永真由美	62	
	暮らしを支える看護Ⅰ	1 (15)	8	2学年	通年	専任教員・堀畑香織	63	
	暮らしを支える看護Ⅱ	1 (30)	15	3学年	通年	白石ミドリ	64	
	暮らしを支える看護Ⅲ	1 (30)	15	3学年	通年	末永真由美	65	
臨地実習	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1 (45)		2学年	後期	専任教員	66	
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	1 (45)		3学年	通年	専任教員	67	
小 計			8 (225)	1年次 1 (30) 2年次 4 (90) 3年次 3 (105)				
	成人看護学 6単位	成人看護学概論	1 (15)	8	1学年	後期	専任教員	68
		成人看護学Ⅰ 循環器系看護 呼吸器系看護 造血器・アレルギー看護	1 (30)	5	2学年	通年	専任教員	69
				5	2学年	通年	非常勤講師	
		成人看護学Ⅱ 消化器系看護 運動器系看護 脳神経系看護	1 (30)	5	2学年	通年	非常勤講師	70
				5	2学年	通年	専任教員	
		成人看護学Ⅲ 腎・泌尿器系看護 内分泌・代謝系看護 感覚器系看護	1 (30)	5	2学年	通年	非常勤講師	71
				5	2学年	通年	非常勤講師	
		成人健康状態別看護Ⅰ	1 (30)	15	2学年	通年	専任教員	72
		成人健康状態別看護Ⅱ	1 (30)	15	2学年	通年	専任教員	73
		小 計			6 (165)	1年次 1 (15) 2年次 5 (150) 3年次 0 (0)		
老年看護学 4単位	老年看護学概論	1 (15)	8	1学年	後期	専任教員	74	
	老年看護援助論Ⅰ	1 (30)	15	2学年	通年	専任教員・非常勤講師	75	
	老年看護援助論Ⅱ	1 (30)	15	2学年	通年	非常勤講師	76	
	老年健康状態別看護	1 (30)	15	2学年	通年	専任教員	77	
臨地実習	成人・老年看護学実習Ⅰ	2 (90)		2学年	後期	専任教員	78	
	成人・老年看護学実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	6 (270)		3学年	通年	専任教員	79～81	
小 計			12 (465)	1年次 1 (15) 2年次 5 (180) 3年次 6 (270)				
小児看護学 4単位	小児看護学概論	1 (30)	15	1学年	後期	専任教員	82	
	小児看護援助論Ⅰ	1 (30)	15	2学年	通年	専任教員	83	
	小児看護援助論Ⅱ	1 (30)	15	2学年	通年	非常勤講師・専任教員	84	
	小児健康状態別看護	1 (30)	15	3学年	通年	専任教員	85	
臨地実習	小児看護学実習	2 (90)		3学年	通年	専任教員	86	
小 計			6 (210)	1年次 1 (30) 2年次 2 (60) 3年次 3 (120)				
母性看護学 4単位	母性看護学概論	1 (30)	15	1学年	後期	専任教員	87	
	母性看護援助論Ⅰ	1 (30)	15	2学年	通年	國生洋子	88	
	母性看護援助論Ⅱ	1 (30)	15	2学年	通年	専任教員	89	
	母性健康状態別看護	1 (30)	15	3学年	通年	専任教員	90	
臨地実習	母性看護学実習	2 (90)		3学年	通年	専任教員	91	
小 計			6 (210)	1年次 1 (30) 2年次 2 (60) 3年次 3 (120)				
精神看護学 4単位	精神看護学概論	1 (30)	15	1学年	後期	植村 彰 他	92	
	精神看護援助論Ⅰ	1 (30)	15	2学年	通年	大田 真司	93	
	精神看護援助論Ⅱ	1 (30)	15	2学年	通年	川畑 孝美	94	
	精神健康状態別看護	1 (30)	15	2学年	通年	専任教員	95	
臨地実習	精神看護学実習	2 (90)		2学年	後期	専任教員	96	
小 計			6 (210)	1年次 1 (30) 2年次 5 (180) 3年次 0 (0)				
看護の統合 と実践 5単位	看護管理と医療安全	1 (30)	15	3学年	通年	三島真美・田畑千穂子	97	
	国際看護と災害看護	1 (30)	15	3学年	通年	山之内千絵・上野佑太	98	
	キャリア論Ⅰ	1 (15)	8	1学年	前期	専任教員・他職種教員	99	
	キャリア論Ⅱ	1 (15)	8	2学年	通年	専任教員・他職種教員	100	
	キャリア論Ⅲ	1 (30)	15	3学年	通年	専任教員・他職種教員	101	
臨地実習	統合実習	3 (90)		3学年	通年	専任教員	102	
小 計			8 (210)	1年次 1 (15) 2年次 1 (15) 3年次 6 (180)				
総 計			67(2,180)	1年次 17 (480) 2年次 29 (905) 3年次 21 (795)				
合 計			104(3,110)	1年次 45 (1,170) 2年次 36 (1,115) 3年次 23 (825)				

年間の教育計画:進捗表

[illegible]

授業科目	論理学	担当講師	原田 義則	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	都市化, 国際化, 少子高齢化, 高度情報化が急速に進む近年においては, 多様で円滑なコミュニケーションを実現する力や, 他人の痛みを自分の痛みとして感じるなどの情緒力が重要である。そこで, 本講義では, 論理的思考力・表現力の基盤となる日本語を適切に運用する力を高めていく。さらに, 新聞記事や「人間」が描かれた近現代文学作品を対象にして, クリティカル・シンキングを行い, 受講生の論理的思考力・表現力の向上を図ることを目的とする。						
到達目標	1. 論理学の基礎的内容及び正確な日本語標記, 効果的な日本語の運用について習得する。 2. 新聞記事及び近代文学作品を対象にして, 自らの意見を論理的に組み立て表現する。 3. 協働的な学習(アクティブ・ラーニング)を通して, コミュニケーション能力を高める。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. オリエンテーション(学習の目的, 内容等) ～印象的な自己紹介文～						
	2. 日本語の効果的な運用について ～書き間違いやすい漢字, 異字同訓, 同音異義語の使い分け, 句読点～						
	3. 日本語の効果的な運用について ～敬語, 言語と非言語の使い分け～						
	4. 日本語の効果的な運用について ～文章スキル(書き出し, 接続詞, トウルミン・モデル)～						
	5. 論理学の基礎的理論について ①						
	6. 論理学の基礎的理論について ② ～三角ロジック, 質疑, 反論～						
	7. 論理的思考力と論理的表現力の実際① ～新聞記事の選択～						
	8. 論理的思考力と論理的表現力の実際② ～新聞記事を対象にした意見文の作成～						
	9. 論理的思考力と論理的表現力の実際③ ～意見文を基にした討論会の実施～						
	10. 近現代作品の講読及び意見文の作成① ～森鷗外「舞姫」を対象にしたクリティカル・シンキング～						
	11. 近現代作品の講読及び意見文の作成② ～森鷗外「舞姫」を対象にしたクリティカル・シンキング～						
	12. 近現代作品の意見文の発表, 全体討論, 講評③ ～森鷗外「舞姫」を対象にしたクリティカル・シンキング～						
	13. 近現代作品の講読及び意見文の作成① ～森鷗外「高瀬舟」を対象にしたクリティカル・シンキング～						
	14. 近現代作品の意見文の発表, 全体討論, 講評② ～森鷗外「高瀬舟」を対象にしたクリティカル・シンキング～						
15. 終講試験・まとめ							
評価方法	筆記試験50% 小レポート等30% 授業への参加態度20% ※総合的に評価する						
教科書	教材は, 授業内容に応じて, 毎回プリントしたものを配布する。						
参考書	参考図書;新しい国語表記ハンドブック 第8版／三省堂						
備考	アクティブ・ラーニングにより, 論理的思考力・表現力を高める講義を行う。積極的な学習態度については加点していくが, 著しく非協力的・無気力等の学習態度については減点する場合がある。						

授業科目	教育学	担当講師	帖佐 尚人	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	・教育学的な観点や指導技術に立脚したうえで, 看護の対象に専門的な指導援助活動を展開できる能力を身につける。 ・生活指導及び道德教育の基礎と, 今日の子どもを取り巻く教育上の諸問題を学習する。 ・保健指導の方法と計画について, 学習指導案作成等を通じて実践的に学ぶ。						
到達目標	1. 教育と看護の接点について考える。 2. 今日の子どもを取り巻く教育上の諸問題の現状と理論を学ぶ。 3. 保健指導の方法と計画について体験的に学ぶ。 4. 教育と看護の接点を改めて考える。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 本講義のガイダンス						
	2. 生活指導① 子どもの問題行動等の歴史						
	3. 生活指導② いじめ						
	4. 生活指導③ 不登校						
	5. 生活指導④ 暴力行為と懲戒						
	6. 生活指導⑤ 食育と給食指導						
	7. 生活指導⑥ 児童虐待						
	8. 生活指導⑦ 学校と関係機関の連携						
	9. 道德教育① 道德教育の基礎						
	10. 道德教育② 道德の教科化と道德教育の展望						
	11. 保健指導① 学習指導要領の解説／学習指導案作成のグループ分け						
	12. 保健指導② グループ活動;資料収集・教材研究						
	13. 保健指導③ グループ活動;学習指導案作成						
	14. 保健指導④ グループ活動;学習指導案の完成と提出						
	15. 保健指導⑤ 指導案についての解説・補足／終講試験						
評価方法	試験55%程度 学習指導案作成35%程度 授業への参加態度10%程度						
教科書	指定なし ※適宜, 授業中に資料を配布						
参考書	指定なし						
備考							

授業科目	看護情報学	担当講師	大野 隆士	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	医療・看護領域における高度情報化に対応できるよう, コンピュータの活用方法と看護に関する情報管理について学ぶ。また, 電子カルテに応用できる能力へとつなげる。						
到達目標	1. 医療・看護を取り巻く情報化の現実を知り, 看護師として情報の活用・管理の必要性を理解する。 2. 医療・看護における情報の取扱い及びモラルや責任について学び, 情報管理の重要性を理解する。 3. 看護の現場において必要とされるコンピュータの知識, 活用スキルを身につける。 4. 看護研究および学術雑誌読解のために, 基本的な統計データ分析の方法について学ぶ。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. コンピュータの基礎知識およびインターネット社会のルールやマナーを学ぶ。 コンピュータとインターネットの基礎, インターネットと著作権, SNSの安全な利用						
	2. 医療・看護における情報の取扱いのモラル・責任について学ぶ。 情報科学と看護, 電子カルテの取り扱いなど						
	3. Windowsの基本的操作方法, ファイル整理の方法を学ぶ。 Windowsの概要, ファイルの整理						
	4. Word文書の作成から印刷までの一通りの操作を行うことができる。 Word(1) 文書の作成, 文書の印刷とページ設定						
	5. 表の挿入や文書の書式やレイアウト変更を行うことができる。 Word(2) 表の作成, 文書の編集						
	6. Wordのさまざまな機能を使い表現力や長文作成の方法を学ぶ。 Word(3) 画像や図等の挿入, 見出しや目次, 長文作成						
	7. ビジネス文書や挨拶状など, 各種の文書を作成する。 Word(4) いろいろな文書の作成						
	8. Excelによる表の作成, 数式や関数を使った計算ができる。 Excel(1) データ入力と編集, 表の作成, 関数の利用						
	9. 棒グラフや散布図等各種のグラフを作成することができる。 Excel(2) グラフの作成						
	10. 統計データから度数分布を作成することができる。 Excel(3) 度数分布の作成						
	11. 統計学の基礎をExcelを使って学ぶ。 Excel(4) Excelによる統計処理(χ^2 検定・t検定など)						
	12. プレゼンテーションの作成からスライドショーまでのPowerPointの基本的な操作を学ぶ。 PowerPoint(1) プレゼンテーションの作成, 図やオブジェクトの挿入と編集						
	13. グラフや表などを使った効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。 PowerPoint(2) 図表・グラフ・表の挿入と編集, 特殊効果						
	14. 演習(1) インターネットを利用して課題について調査する。						
	15. 演習(2) 調査した課題をまとめてプレゼンテーションを作成する。						
評価方法	講義終了時に, 課題レポートを提出してもらい評価する。						
教科書	30時間アカデミック Office2021			※必要に応じてプリントを配布する。			
参考書							
備考	実務経験;大学にて, 教授として講義を行っている。						

授業科目	心理学	担当講師	大島 英世	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	前期
				授業方法		講義	
科目概要	看護の対象となる人間を, 身体的・心理的・社会的・霊的側面を持つ統合体として理解する。 心理学的ものの見方, 考え方を学び, 人間の行動を多面的に理解する。						
到達目標	1. 自分は他者をどのように認知し, 理解しようとしているかに気づく。 2. 他者は自分をどのように認知しているかについて理解する。 3. ストレスとその対処法、メンタルヘルスについて理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 心理学の視点						
	2. 感覚・知覚						
	3. 学習・記憶						
	4. 感情・動機						
	5. 性格・知能						
	6. 発達① 発達の規定要因						
	7. 発達② 乳幼児期・児童期						
	8. 発達③ 青年期・成人期・老年期						
	9. 健康の心理と人間理解						
	10. 臨床心理学の基礎						
	11. 心理アセスメント						
	12. 心理療法①						
	13. 心理療法②						
	14. 心理療法③						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験70% 授業中の小レポート20% 授業への参加態度10%						
教科書	看護学生のための心理学／医学書院						
参考書	心理学〔第5版補訂版〕／東京大学出版会						
備考	実務経験;公認心理師・臨床心理士としての経験をもとに講義を行う。						

授業科目	人間工学	担当講師	岡村 俊彦	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	人間の身体を心理的・生理的・物理的・工学的側面から捉え, 安全・快適な作業環境を整えることを学ぶ。						
到達目標	1. 人体の構造とメカニズムを物理的側面から考え, 看護技術の基本となる力学を理解する。 2. 看護者と対象の身体の負担を最小限にし, 安全かつ動作の経済性を考慮した作業方法を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 人間工学の概要, 目的, システムの考え方						
	2. 受容器と効果器, 使いやすさ, 姿勢						
	3. 看護作業と姿勢, 記憶と学習						
	4. ボディメカニクス, 看護作業						
	5. 支持基底面と重心, 職場の心理学						
	6. 移乗のコツ, ヒューマンエラー						
	7. バリアフリー, ユニバーサルデザイン, 看護人間工学のまとめ						
	8. 終講試験						
	評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%					
教科書	イラストで学ぶ看護人間工学／東京電機大学出版局						
参考書	看護動作を助ける基礎人間工学／東京電機大学出版局						
備考							

授業科目	看護と生物学	担当講師	上水樽 豊己	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護師にとって、生命に対する深い理解は必要不可欠であり、そのための基礎となる学問が生物学である。生物学の基本的内容を学ぶことで、生命のすばらしさを理解するとともに、看護専門領域の学習の基礎とする。						
到達目標	1. 細胞内小器官の構造とその機能を理解する。 2. 生体を構成している物質を理解する。 3. 生物の代謝をおおまかに理解する。 4. 生物の遺伝、及び遺伝子の役割を理解する。 5. 生体防御の仕組みを理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 生物の最小機能単位, 細胞, 体液のしくみと働き						
	2. 遺伝情報を担うDNA, 遺伝と遺伝性疾患のしくみ						
	3. 代謝総論①生命エネルギーと代謝, 代謝総論②化学反応と酵素						
	4. 糖質の代謝, 脂質の代謝						
	5. タンパク質・アミノ酸の代謝						
	6. 内分泌系ホルモン, 神経系の構造と情報伝達						
	7. 血管系とリンパ系, 免疫系のしくみ						
	8. 終講試験						
	評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%					
教科書	看護系で役立つ 生物の基本 第2版／化学同人						
参考書	高等学校の生物教科書						
備考	高校で生物を履修していない学生も、本講義を機会に生命現象を深く理解する必要があります。						

授業科目	看護と化学	担当講師	黒木 幹博	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護専門領域の科目を理解するための基礎学力を身につける。高校化学の学習内容を踏まえながら, 原子の構造, 化学結合, 化学反応式, 酸・塩基などが説明できること, 溶液の濃度が計算できることを目指す。						
到達目標	1. 原子, 分子及び化学結合を理解する。 2. 気体や溶液の性質及び化学反応と反応熱を理解する。 3. 酸・塩基, 中和を理解する。 4. 種々の無機反応や無機化合物の性質を理解する。 5. 種々の有機反応や有機化合物の性質を理解する。 6. 糖質, タンパク質, 核酸の構造を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 身のまわりの化学, 原子の構造						
	2. 物質の状態;物質の三態, 気体の性質, 液体・溶液の性質						
	3. 放射線と人体への影響, 放射線の医療における利用						
	4. 物質の化学反応						
	5. 体液や電解質のバランスの役割						
	6. 浸透現象と酸・塩基						
	7. 有機化合物, 生体高分子の構造, 消化と酵素						
	8. 終講試験						
	評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%					
教科書	看護系で役立つ化学の基本 第2版／化学同人						
参考書	高等学校の化学教科書						
備考	高校で化学を履修していない学生も, 本講義を機会に生命現象を深く理解する必要があります。						

授業科目	倫理学	担当講師	杉山 和之	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	実際の生活上での個人や集団の道德の規範となる倫理について学び, 看護現場で生じる倫理的諸問題を整理し, より良い対応につなげるための視点を養う。						
到達目標	人間の行為や道德について理解し, 倫理的課題について考察することで人権を尊重した倫理的判断能力を身につける。 1. 人間の行為や道德について理解する。 2. 人権の尊重について学び, 人間の価値観について考える。 3. 社会生活における行動規範について考える。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. Introduction ①授業内容と進め方 ②レポート提出の件						
	2. Case1 医療者の指示に従わない患者 [関連資料]海外老人ホーム事情①						
	3. Case2 がんの告知 [関連資料]海外老人ホーム事情②						
	4. Case3 安楽死・尊厳死 [関連資料]在宅看護に関して①						
	5. Case4 セデーション [関連資料]在宅看護に関して②						
	6. Case5 脳死 [関連資料]在宅看護に関して③						
	7. Case6 在宅患者への医療・介護 [関連資料]老人医療に関して①						
	8. Case7 認知症高齢者						
	評価方法	レポート90% 授業への参加態度(授業中の発言などを評価) 10%					
教科書	ケースブック医療倫理／医学書院						
参考書	必要に応じて資料の配布(関連資料)						
備考							

授業科目	社会学	担当講師	佐野 正彦	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	「社会的存在」である人間はさまざまな他者との関係にある存在である。「社会的存在」としての問題点について考えることからはじめ、個人を取り巻く社会、個人がおかれている社会環境に目を向け社会学の基本的な考え方と基礎的な概念について学ぶ。						
到達目標	社会と人間の相互反映的關係性を考察する。人間は社会に生きることによって社会的存在になり得ると同時に、社会は人間によってその都度構成されていくことを理解することを目指します。 1. 社会学(sociology)という1つの学科＝学問(discipline)の特長を学ぶ。 2. 人間とは何か？本能, 文化, 制度, 欲望, 意味・・・などの諸概念を理解する。 3. 大衆社会の特徴と、現代家族の機能を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 社会学の対象の複雑性						
	2. 野生児と社会的存在としての人間						
	3. ホモ・サピエンス(理性人)としての人間						
	4. ホモ・デメンスとしての人間						
	5. ホモ・デメンスと文化						
	6. 社会的存在としての人間と文化の秩序						
	7. 文化とは何か						
	8. 文化の拘束性と＜社会科＞						
	9. 「事実」と＜われわれ＞						
	10. 文化と＜言語＞						
	11. ＜制度＞という考え方						
	12. ＜制度＞の諸特徴						
	13. ＜制度＞の存立構造						
	14. 日常性と相互行為						
	15. 終講試験・総括						
	私たちは社会のなかで数多くの他者とともに生きており、さまざまな経験をもっています。社会学とは、こうした私たちの経験の諸相に注目し、またそれらのなかに私たちが他者と共に生きていることから由来している帰結を見出していく知的作業のことです。この授業ではとりわけ健康や医療を中心にこのような作業を行いながら、私たち自身の経験をより広い視野から捉え返していってみたいと考えています。						
評価方法	定められた出席率を充足していることを前提に、筆記試験によって成績評価する。						
教科書	リアリティの社会学／社会学入門 八千代出版						
参考書	その都度紹介する。						
備考	関連科目;心理学・看護学概論・小児概論・小児保健・精神保健						

授業科目	看護における 人類学	担当講師	森田 清美	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護分野における人類学的な諸知識を知り, 文化による健康観や病気に対する考え方, 生活習慣など, その文化に適したケアについて理解する。						
到達目標	1. 人間の文化の違いによる生活や病の多様性を知る。 2. 文化によって異なる考え方や行動などの様々なあり方を学ぶ。 3. 看護者として, 患者やその家族, 病院職員などの異なる考え方, 調整する役割について考える。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 医療人類学が現代社会に貢献する意味とその可能性						
	2. 人を標準化したりしないで個人として尊重する見方						
	3. 個人や家族, 看護とは何か						
	4. 通過儀礼と境界の危険性と病の予防観						
	5. 宗教の多様性と呪術と病気に対する考え方						
	6. 人間にとって病気とは何か						
	7. 死の意味と現代社会における再生観, 医療のグローバル化						
	8. 終講試験						
	評価方法	筆記試験及びレポート90% 授業への参加態度10% ※総合的に評価					
教科書	系統看護学講座 基礎分野 文化人類学／医学書院 時々プリントを使用						
参考書	池田光穂など「医療人類学のレッスン」／学陽書房						
備考							

授業科目	人間関係論	担当講師	神 菌 紀 幸	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	人間を成長する存在として捉え, 人間理解・対人関係のもち方や人間関係を円滑に進めるための技法について学び看護職者としての基礎を築く。						
到達目標	1. 人間は社会相互作用の中で生活していることを理解し, 人間関係を円滑に維持するために必要な対人関係のあり方の基礎を学ぶ。 2. 対人関係に関する基本的な理論や人間の心理的過程を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 社会的影響過程 対人的影響方略(1) 送り手側の要因						
	2. 社会的影響過程 対人的影響方略(2) 受け手側の要因						
	3. 社会的影響過程 対人的影響方略(3) テクニカルな働きかけ						
	4. 小集団における社会的相互作用過程の観察						
	5. 小集団における社会的相互作用過程の分析						
	6. 影響力の武器, マインドコントロールとは何か						
	7. 親密な人間関係 対人魅力の規定因						
	8. コミュニケーションの阻害要因						
	9. 社会的行動の個人的基盤						
	10. 情報伝達のプロセス—コミュニケーションの受容						
	11. 集団内での社会的合意形成プロセス						
	12. 情報処理システムと人間関係						
	13. グループプロセスの観察とフィードバック						
	14. カウンセリング的かかわりの日常的対人関係への援用						
	15. カウンセリング的かかわりの日常的対人関係への援用／終講試験						
評価方法	筆記試験70% 提出物・小レポート20% 授業への参加態度10% 評価基準;授業中に扱った内容について, その理解を得ていることを終講試験を含めた各種課題で表現できていることを合格の目安とする。						
教科書	なし						
参考書	男と女の対人心理学／北大路書房						
備考	事前学習;関連する資料や書籍を各自読んでおくこと。 事後学習;授業中に扱った内容を振り返り必要に応じてノート等にまとめておくこと。 課題等に対するフィードバックの方法;受講者の求めに応じて個別に対応する。						

授業科目		生活科学 (衣・食・住)	担当講師	坂上 ちえ子 有村 恵美 宍戸 克実	単位数	1	対象学生	1年次
					時間数	30	時期	前期
					授業方法		講義, 演習等	
科目概要		人間の生活の基本である衣・食・住の概念を学び生活者としての人間を理解する。						
到達目標		【衣】衣服は生活の中でどのような役割(機能)を果たしているのかを学ぶ。被服の素材や選び方, 管理のしかたを学ぶ。 【食】健康維持や成長のため, 食生活がいかに大切であるかを学ぶ。 多様化する食の特徴やその周辺を学びながら, 地域に根ざした食の基本と特徴を学ぶ。 【住】住まいの機能を理解し, その上で国の住生活の現状と課題を考える。快適に生活できる住宅の条件を理解する。障害者が住みやすい住宅とはどのようなものか考えることができる。						
授業計画	単元	学 習 内 容 (担当)						
	衣 (10時間)	1. 被服の役割と機能, 被服の各表示						坂上ちえ子
		2. 被服の素材(繊維・布の種類と性能), 機能性素材						坂上ちえ子
		3. 被服の安全性(燃焼性実験), 被服と皮膚衛生(肌着の役割, 衣料障害)						坂上ちえ子
		4. 被服の管理(洗濯と仕上げ) 寝具の衛生, 高齢者・障がいのある人の被服生活						坂上ちえ子
		5. 終講試験・まとめ						坂上ちえ子
	食 (10時間)	6. 食の概念 食生活の変遷と健康						有村 恵美
		7. 食生活と健康 各栄養素の特徴						有村 恵美
		8. 食生活と健康 食品とその種類・特徴						有村 恵美
		9. 食生活と健康 食事バランス, 調理と献立・加工食品						有村 恵美
		10. 終講試験・まとめ						有村 恵美
	住 (10時間)	11. 住生活の形態と変遷						宍戸 克実
		12. 住空間の構成要素1(様々な暮らしと間取り)						宍戸 克実
		13. 住空間の構成要素2(所要室と屋外空間)						宍戸 克実
		14. 室内環境とバリアフリー						宍戸 克実
		15. 終講試験・まとめ						宍戸 克実
評価方法		筆記試験70% 提出物10% 授業への参加態度20% 生活科学の評価は, 衣・食・住の3単元の平均点とする。						
教科書		なし						
参考書		衣生活学／朝倉書店, 新しい被服衛生／南江堂 その他プリント						
備考		実務経験(坂上);短期大学にて、教授として講義を行っている。 実務経験(有村);病院の管理栄養士としての豊富な経験をもとに講義を行う。 実務経験(宍戸);短期大学にて、准教授として講義を行っている。						

授業科目	看護英語	担当講師	ストックデイル ・デイビッド ・アシュリイ	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	国際化の視点に立ち, 医療現場でのコミュニケーションとして, 英語会話が必要になる場面がある。 基礎的な英会話を学び, さらに看護場面で使える英語力を養う。						
到達目標	1. 国際社会に対応できるように, 国際共通語である日常の英会話の表現能力を身につける。 楽しみながら英語を学び, 英語の知識を実社会に役立てる。 英語を通して, 患者とのコミュニケーションの大切さを学ぶ。 2. 医療に関する単語力を養いながら, 専門的な情報を解読するために必要な基礎的知識を学ぶ。 医療・医学の基礎知識に関する最小限の専門用語を習得する。 英語対話から看護師としての将来像がimageできる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. Personal Introduction—ask me ! Find Someone Who—ask each other						
	2. Unit 1 —Please speak more slowly.						
	3. Unit 2 - Where are you from?						
	4. Unit 3 —Could you tell me your address, please?						
	5. Unit 4 - What department do you want to visit?						
	6. Unit 5 - Where is the X-ray department?						
	7. Unit 6 - What are your symptoms?						
	8. Unit 7 - Where does it hurt?						
	9. Unit 8 —Have you ever had any serious illnesses?						
	10. Unit 9 - Take one tablet, four times a day.						
	11. Unit 10 -Let me make an appointment for your test.						
	12. Unit 11 -Your surgery will be tomorrow at 9 a. m.						
	13. Unit 12 -How are you feeling today?						
	14. Final EXAMINATION 筆記試験						
	15. Review of Final EXAMINATION (Wrap-Up)						
評価方法	出席率20%, 3回の小テスト30%, 期末試験50%で評価します。						
教科書	クリスティーンのやさしい看護英会話/医学書院						
参考書	和英辞典, 英和辞典; 学生は各自、自分の辞書を授業には欠かさず持参する。(高校で使用したもので結構。電子辞書も可)						
備考							

授業科目	健康とスポーツ	担当講師	高岡 綾子	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	人間にとってなぜ運動やスポーツ活動が大切なのかを理解し, 実践を通してその具体的な内容や方法を習得する。						
到達目標	1. 自身の健康維持・増進に必要な日常生活の中で行えるトレーニングの理論と実技を身につける。 2. 仲間とコミュニケーションをとりながらスポーツを楽しみ, 今後の生活に生かすことができるようになる。 3. 特定の対象者における運動療法の理解を深める。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. オリエンテーション 講師の自己紹介と授業の進め方, 評価方法などの説明 学生は自身のプロフィールを書いたコミュニケーションシートを提出						
	2. 生涯スポーツとしてのエアロビック スローエアロビックの理論と実技を学ぶ						
	3. スポーツとしてのエアロビック① エアロビックステップの基本を学ぶ						
	4. スポーツとしてのエアロビック② 発表会に向けてグループ練習						
	5. スポーツとしてのエアロビック③ グループでの創作パート練習						
	6. エアロビック④ 発表会に向けた全体練習						
	7. エアロビック⑤発表会リハーサル						
	8. エアロビック⑥ 合同発表会(実技テスト) エアロビックの発表と他グループの評価を行う						
	9. コンデショニング① モニタリング&下肢のコンデショニング						
	10. コンデショニング② 頸部&上肢のコンデショニング						
	11. コンデショニング③ 腰部&背部のコンデショニング						
	12. コンデショニング④ 呼吸のトレーニング						
	13. 妊娠期における運動療法について① 理論 妊娠期における運動の意義と効果 & 乳幼児の発育発達						
	14. 妊娠期における運動療法について② 実技 病院で集団で行う運動 & 家庭で家族と行う運動						
	15. 筆記試験 授業のまとめ						
評価方法	筆記試験45%程度 実技試験45%程度 授業への参加態度10%以下						
教科書	有吉与志恵著 正しい体幹トレーニング／株式会社実業之日本社						
参考書							
備考	実務経験;講義の傍ら体操教室を運営し, 健康科学をふまえた講義を行う。						

授業科目	解剖生理学Ⅰ	担当講師	吉家 清貴	単位数	2	対象学生	1年次
				時間数	60	時期	通年
				授業方法		講義	
科目概要	解剖学生理学は、医学体系のもっとも基礎をなすもので、解剖学によって人体の正常な形態と構造を、生理学によって同じく役割と機能を学ぶ。その結果として、病気の成り立ちや医療行為のあり方についての基礎を理解した上で、生命の尊厳を認識する。						
到達目標	1. 正常な身体の形態と機能について、基礎的な知識を修得し、器官相互のつながりや身体全体の調和がどの様に維持されているかを理解する。 2. 具体的には、運動系(骨格・筋)、神経系、感覚器系、免疫系、生殖器系の構造と機能、および成長と老化について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 解剖生理学総論 講義内容の概要						
	2. 身体の支持と運動 骨の構造と機能 関節の構造と機能 骨格筋の構造と作用						
	3. 身体の支持と運動 各論(1)体幹の骨格と筋						
	4. 身体の支持と運動 各論(2)上肢の骨格と筋 上肢の運動						
	5. 身体の支持と運動 各論(3)下肢の骨格と筋 下肢の運動						
	6. 身体の支持と運動 各論(4)頭頸部の骨格と筋						
	7. 身体の支持と運動 各論(5)筋の収縮 骨格筋・心筋・平滑筋						
	8. 情報の受容と処理 神経系の構成と内部構造 神経系の発生						
	9. 情報の受容と処理 各論(1)脊髄の構造と機能						
	10. 情報の受容と処理 各論(2) 脳の構造と機能① 脳幹・小脳						
	11. 情報の受容と処理 各論(3) 脳の構造と機能② 間脳・大脳						
	12. 情報の受容と処理 各論(4) 脳の構造と機能③ 脳室と髄膜・脳脊髄液						
	13. 情報の受容と処理 各論(5) 脳の構造と機能④ 脳の高次機能						
	14. 情報の受容と処理 各論(6) 脳の構造と機能⑤ 上行・下行伝導路						
	15. 前期まとめ 中間試験						
	16. 感覚器① 眼の構造と視覚						
	17. 感覚器② 耳の構造と聴覚・平衡覚						
	18. 感覚器③ 味覚・嗅覚, 痛覚 [疼痛]						
	19. 身体機能の防御と適応;非特異的防御機構 皮膚・自然免疫						
	20. 免疫;特異的防御機構 獲得免疫						
	21. 免疫;特異的防御機構の異常						
	22. 生体防御の関連臓器;リンパ系 胸腺 脾臓						
	23. 代謝;代謝と運動						
	24. 体温;体温とその調節						
	25. 生殖・発生と老化のしくみ① 男性生殖器						
	26. 生殖・発生と老化のしくみ② 女性生殖器						
	27. 生殖・発生と老化のしくみ③ 受精と発生						
	28. 生殖・発生と老化のしくみ④ 成長と老化						
	29. まとめと疾患供覧						
	30. まとめ・終講試験						
評価方法	筆記試験100%(15回終了時に中間試験, 30回目に終講試験の平均点とする)						
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] /医学書院 系統看護学講座 準拠 2025年版 解剖生理学ワークブック/医学書院						
参考書	図書館に下記の参考書があります ① ネットー解剖学アトラス/南江堂 ② ネットー解剖生理学アトラス/南江堂 ③ からだのしくみ事典/成美堂出版						
備考	実務経験;消化器外科, 小児外科を中心として医業に携わり, 大学では微生物学, 免疫学の研究に従事した豊富な経験をふまえ基本的知識の講義を行う。 事前学習;講義内容の要約を事前に配布する。できれば, 教科書の学習内容の項目を事前に一読しておくこと。						

授業科目	解剖生理学Ⅱ	担当講師	山口 孝二郎	単位数	2	対象学生	1年次
				時間数	60	時期	通年
				授業方法		講義	
科目概要	解剖学と生理学は、医学体系のもっとも基礎をなすもので、解剖学によって人体の形態と構造を生理学によって役割と機能を学ぶ。その結果として人体と生命の尊厳を認識する。						
到達目標	1. 正常な身体の形態と機能について、基礎的な知識を修得し、器官相互のつながりや身体全体の調和がどの様に維持されているかを理解する。 2. 人体を構成する細胞・組織の基本構造と機能を理解する。 3. 消化器系、呼吸器系、泌尿器系、血液・造血器系の構造と機能を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 解剖生理学Ⅱ はじめに						
	2. 人体の構造と機能を学ぶために						
	3. 細胞の構造, エネルギー生成						
	4. 遺伝情報, 細胞膜の構造と機能(1)						
	5. 細胞の増殖と染色体・細胞膜の構造と機能(2)						
	6. 機能からみた人体						
	7. 体液とホメオスタシス						
	8. 口・咽頭・食道の構造と機能						
	9. 腹部消化管の構造と機能						
	10. 栄養素の消化と吸収						
	11. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能						
	12. 腹膜・呼吸器の構造						
	13. 肝臓の生理と肝硬変, 呼吸器の構造・下気道と肺						
	14. 呼吸運動, 呼吸のメカニズム						
	15. ガス交換とガスの運搬						
	16. 呼吸の異常, 血液(1)						
	前期まとめ, 中間試験						
	17. 血液(2)						
	18. 血液凝固・血液型						
	19. 循環器系の構成						
	20. 心臓の拍出機能, 心電図(1)						
	21. 心電図(2), 心周期(1)						
	22. 心周期(2), 末梢循環系の構造						
	23. 血液の循環の調節						
	24. 微小循環, リンパ・リンパ管						
	25. 腎臓・糸球体の構造と機能						
	26. 尿細管の構造と機能・傍糸球体装置						
	27. 排尿路・体液の調節						
	28. 酸塩基平衡, 自律神経による調節						
	29. 内分泌系による調節, ホルモン分泌の調節						
30. 終講試験							
評価方法	筆記試験100%(16回終了時に中間試験, 30回目に終講試験の平均点とする)						
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] /医学書院 系統看護学講座 準拠 2025年版 解剖生理学ワークブック/医学書院						
参考書	からだの地図帳/講談社 Blue Backs 新しい人体の教科書(上)(下)						
備考	解剖生理学の講義を踏まえ、教科外活動として解剖見学を行う。 実務経験; 歯科医師として医業に携わり、豊富な経験をふまえ基本的知識の講義を行う。						

授業科目	形態機能学Ⅰ	担当講師	専任教員 國生洋子	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	人体の構造と機能の知識を使い, どのようにからだを使って人は日常生活を営んでいるのかを知る。そして, 生活機能の低下に応じたときの援助に活用できる機能として捉え, 多様な看護のあり方を学ぶ。						
到達目標	1. 生命維持に必要な生活環境を考える。 2. 日常生活におけるからだの仕組みを認識する。 3. 個としての人間の子孫を残す能力と子どもに遺伝子を継承していく過程を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	※形態機能学におけるガイダンス						
	1-1 第1章 何のための生活行動か 第12章～外部環境とからだ～ 1-2～生命維持と生活活動～日常生活行動の援助からみる						
	2. 恒常性維持のための調節機構;神経性調節・液性調節・免疫系						
	3. 【事例検討】お風呂に入る① 皮膚, 身体防御(ワーク)						
	4. 【事例検討】お風呂に入る② 皮膚, 身体防御(ワーク)						
	5. 【事例検討】お風呂に入る③ 温まる, 自律神経の働き(ワーク・発表)						
	6. 子どもを生む① 男とおんな, 遺伝子						
	7. 子どもを生む② 分娩台とファントームを使用して分娩体験をする(演習)						
	8. 終講試験						
	評価方法	筆記試験80% レポート課題20%					
教科書	看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版／日本看護協会出版会						
参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] /医学書院 看護形態機能学 第3版／日本看護協会出版会						
備考	実務経験;助産師, 看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	形態機能学Ⅱ	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	人体の構造と機能の知識を使い, どのようにからだを使って人は日常生活を営んでいるのかを知る。そして, 生活機能の低下に応じたときの援助に活用できる機能として捉え, 多様な看護のあり方を学ぶ。						
到達目標	1. 生命維持に必要な生活環境を考える。 2. 日常生活におけるからだの仕組みを理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 食べる① 食欲, 食行動, 咀嚼し味わう, 飲み込む, 消化と吸収						
	2. 食べる② 何をどれだけ食べるか, 食品の知識(演習)						
	3. トイレに行く① 排尿, 排便						
	4. 動く① 姿勢, 反射・随意運動						
	5. 動く② 骨格・骨格筋・関節, 日常生活での基本的な動き						
	6. 動く③ 事例を用い「つかむ」「歩く」グループワーク, 発表, 評価						
	7. 眠る①人はなぜ眠くなるのか?からだのリズム人類誕生のころ, 覚醒している時間は 何のための時間だったか。夜は睡眠の時間だった。						
	8. 終講試験						
評価方法	筆記試験80% レポート課題10% 授業への参加態度10%						
教科書	看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版／日本看護協会出版会						
参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] ／医学書院 看護形態機能学 第3版／日本看護協会出版会						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	生化学	担当講師	古川 龍彦	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義	
科目概要	物質の生体に対する機能と代謝について化学的に学ぶ。						
到達目標	1. 遺伝子の構成とその機能を学び、遺伝の背景を理解する。 2. 生命活動の場である細胞の機能を理解し、生化学反応の場となる細胞小器官について理解する。 3. 栄養素としての糖質、脂質、タンパク質、核酸、ビタミンの性質を理解し、これら栄養素に関連する生命活動を支える物質が、常に生体内で交替(代謝回転)していることを理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	第1部:生体を構成する物質とその代謝・第2部:遺伝情報とその発現						
	1. 第1章 基礎知識 第10章 遺伝子と核酸 A						
	2. 第7章 タンパク質の構造と機能, 第8章 タンパク質代謝						
	3. 第2章 代謝の基礎と酵素・補酵素						
	4. 第3章 糖質の構造と機能						
	5. 第4章 糖質代謝						
	6. 第5章 脂質の構造と機能 第6章 脂質代謝						
	7. 第9章 ポルフィリン代謝と異物代謝						
	8. 第10章 遺伝子と核酸 C、D 第11章 遺伝子の複製・修復・組換え						
	9. 第12章 転写 第13章 翻訳と翻訳後修飾						
	10. 振り返りテスト						
	11. 第10章 遺伝子と核酸B						
	第3部:細胞のシグナル伝達とがん						
	12. 第14章 シグナル伝達						
	13. 第15章 がん						
	14. 予備テスト						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能[2] /医学書院						
参考書	アメリカ版 大学生物学の教科書(1～3巻)/講談社 ブルーバックシリーズ GAIA Books ポケットアトラス栄養学						
備考	1. 教科書の第1章は、授業開始までに各自必ず勉強しておくこと。 2. 授業進度が早いので、自学自習を徹底してください。 3. 夏季休業に課題を出します。 実務経験;医師・歯科医師として医業に携わり、豊富な経験をふまえ基本的知識の講義を行う。						

授業科目	栄養学	担当講師	西村 和子	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	栄養は命の源である。健康の維持, 疾病の予防・増悪予防に関わる栄養の意義を知る。						
到達目標	1. “食＝栄養”の基本と栄養管理の意義及びその重要性を理解する。 2. 栄養素の働きと健康への関わりを生活感の中で学ぶ。 3. 医療者として患者の病態と栄養療法の重要性を知り, 適切なケアマネジメントを学ぶ。 4. 多職種協働のために必要な栄養管理の基本を習得し, 医療の現場へ還元できる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 栄養学の意義・人間栄養学と看護(看護業務に係る栄養学の大切さ)						
	2. 栄養素の種類と働き・食事と食品(栄養素の特異性を知り健康につなげる)						
	3. 消化・吸収・代謝(人体の栄養の流れから病態を推察する)						
	4. 栄養評価と栄養ケアマネジメント(栄養処方)						
	5. 病態別栄養療法 ①循環器疾患Part I 栄養評価と病態						
	6. 病態別栄養療法 ②循環器疾患Part II 具体的な栄養療法						
	7. 病態別栄養療法 ③消化器疾患Part I 消化管の機能と病態						
	8. 病態別栄養療法 ④消化器疾患Part II 具体的な栄養療法						
	9. 病態別栄養療法 ⑤栄養代謝疾患Part I 生活習慣との関連						
	10. 病態別栄養療法 ⑥栄養代謝疾患Part II 具体的な栄養療法						
	11. 病態別栄養療法 ⑦腎疾患Part I 栄養評価と病態						
	12. 病態別栄養療法 ⑧腎疾患Part II 具体的な栄養療法						
	13. 病態別栄養療法 ⑨外科栄養療法 部位別・手術前後の栄養管理						
	14. 病態別栄養療法 ⑩法的根拠						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能[3] /医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法/医学書院						
参考書	オールガイド食品成分表2025年度版／実教出版 糖尿病食事療法のための食品交換表						
備考	※食品成分表(必要) 実務経験;管理栄養士としての豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	微生物学	担当講師	杉原 一正	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	前期
				授業方法		講義	
科目概要	微生物についての十分な基礎知識を身につけ、病原微生物によって惹き起こされる感染症の成り立ちを、微生物側の要因と宿主生体側の要因との関連性の中で考える能力を身につける。						
到達目標	1. 微生物の種類とそれぞれの性質及び特徴を理解する。 2. 感染症の予防と治療に関する基礎的知識を理解する。 3. 病原微生物に対する生体防御機構や感染症の発症機構を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 微生物学の基礎, 微生物と微生物学						
	2. 細菌の性質						
	3. 真菌の性質, 原虫の性質						
	4. ウイルスの性質						
	5. 感染とその防御, 感染症の成り立ちから発症の治療まで						
	6. 感染に対する生体防御機構, 免疫のしくみ						
	7. 感染の徴候と症状						
	8. 滅菌・消毒, 感染源・感染経路からみた感染症						
	9. 感染症の検査と診断						
	10. 感染症の治療						
	11. 感染症の現状と対策						
	12. おもな病原微生物, 細菌感染症						
	13. 細菌感染症・真菌感染症						
	14. 原虫感染症とウイルス感染症						
	15. 終講試験とその解説						
評価方法	終講試験80% 小テスト10% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進[4] / 医学書院						
参考書							
備考	講義はパソコンによるプレゼンテーションと黒板への板書で行う。 実務経験; 大学病院に勤務した歯科医師としての臨床経験をもとに、感染症の原因となる病原微生物について講義を行う。						

授業科目	病態生理学	担当講師	徳留 京子	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	後期
				授業方法		講義	
科目概要	健康障害を引き起こす病因と病変を理解する。						
到達目標	1. 病変, 病因, 病態(代謝障害, 循環障害, 先天異常, 炎症, 腫瘍, 老化)について理解する。 2. 細胞の変化～変性・壊死・萎縮～について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 病理学で学ぶこと						
	2. 循環障害						
	3. 炎症と免疫 膠原病						
	4. 感染症						
	5. 代謝異常						
	6. 先天異常と遺伝子異常						
	7. 腫瘍						
	8. 循環器系の疾患						
	9. 血液・造血器疾患						
	10. 呼吸器疾患						
	11. 消化器疾患						
	12. 腎・泌尿器, 生殖器疾患						
	13. 内分泌疾患						
	14. 脳・神経・筋肉系の疾患						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験90～100% 授業への参加態度10%未満						
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進[1] /医学書院						
参考書	講義に関するプリントを配布						
備考	プロジェクターによる視覚教材を使用する。 実務経験;医師として病理解剖に携わった経験をもとに, 病理に関する講義を行う。						

授業科目	臨床薬理学	担当講師	木下 力	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	後期
				授業方法		講義	
科目概要	患者の疾病からの回復の促進と患者の安全を守るための薬理学の基礎的知識を修得する。						
到達目標	1. 薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び管理について理解する。 2. 患者の疾病からの回復の促進と患者の安全を守るための臨床で多用する薬剤の知識を修得する。 3. 臨床で多用する薬の取扱い方法と留意事項について理解し、薬物療法が安全・安楽に実施できる基礎的知識を修得する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 薬理学とは何か、薬による病気の治療						
	2. 薬が作用するしくみ(薬力学)、薬の体内の挙動(薬物動態学)						
	3. 薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子						
	4. 薬物使用の有益性と危険性						
	5. 薬と法律、添付文書						
	6. 抗感染症薬						
	7. 漢方薬、消毒薬、輸液製剤、輸血剤						
	8. 抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬						
	9. 抗炎症薬						
	10. 末梢での神経活動に作用する薬物						
	11. 中枢神経系に作用する薬物						
	12. 心臓・血管系に作用する薬物						
	13. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物						
	14. 物質代謝に作用する薬物 皮膚科用薬、眼科用薬、救急薬						
	15. 終講試験						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進[3] /医学書院						
参考書	ナーシング・グラフィカ④疾病の成り立ち 臨床薬理学／メディカ出版						
備考	実務経験;薬剤師業務に携わり、薬剤に関する基本的知識及び服薬指導までの講義を行う。						

授業科目	疾病と治療Ⅰ (循環器系) (呼吸器系)	担当講師	吉家 清貴	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義	
科目概要		1. 循環器系に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を修得し、検査・治療の方法を理解する。 2. 呼吸器系に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を修得し、治療の方法を理解する。					
到達目標		1. 循環器系の主な症状、主な検査の種類と方法について学ぶ。 2. 循環器系の主な疾患、治療について学ぶ。 3. 呼吸器系の主な症状、主な検査の種類と方法について学ぶ。 4. 呼吸器系の主な疾患、治療について学ぶ。					
授業計画	単元	学 習 内 容					
	循環器系 (15時間)	1. 心血管系疾患の症候					
		2. 心血管系疾患の検査(胸部写真, エコー, 心臓カテーテル法, 心電図)					
		3. 動脈・静脈の疾患(動脈硬化症, 動脈瘤, 深部静脈血栓症 他)					
		4. 虚血性心疾患(狭心症, 心筋梗塞)					
		5. 心臓伝導障害(頻脈, 不整脈, 徐脈)					
		6. 心不全, 血圧の異常(高血圧, 低血圧)					
		7. ショックと臓器不全(心原性ショック, 出血性ショック)					
		8. 終講試験					
	呼吸器系 (15時間)	9. 呼吸器疾患の症状					
		10. 呼吸器疾患の検査と治療・処置					
		11. 呼吸器感染症					
		12. 気管支喘息, 閉塞性肺疾患, 拘束性肺疾患					
		13. 呼吸の異常, 呼吸不全					
		14. 肺血栓塞栓症, 気管支拡張症, 気胸・胸水					
		15. 肺腫瘍(肺がん, 中皮腫)					
		16. 終講試験					
評価方法		筆記試験100%(循環器系50%、呼吸器系50%) 疾病と治療Ⅰの評価は、循環器系と呼吸器系の合計とする。					
教科書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器／医学書院					
参考書		系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] ／医学書院					
備考		実務経験;消化器外科, 小児外科を中心として医業に携わり, 大学では微生物学, 免疫学の研究に従事した豊富な経験をふまえ基本的知識の講義を行う。 事前学習;講義内容の要約を事前に配布する。できれば, 教科書の学習内容の項目を事前に一読しておくこと。					

授業科目		疾病と治療Ⅱ (造血器系) (消化器系)	担当講師	吉家 清貴 吉永 あゆみ	単位数	1	対象学生	2年次
					時間数	30	時期	通年
					授業方法		講義	
科目概要		1. 血液・造血器系, 免疫機能に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し, 治療の方法を理解する。 2. 消化器系に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し, 治療の方法を理解する。						
到達目標		1. 血液・造血器系, 自己免疫疾患の主な症状, 主な検査の種類と方法について学ぶ。 2. 血液・造血器系, 自己免疫疾患の主な疾患, 治療について学ぶ。 3. 消化器系の主な症状, 主な検査の種類と方法について学ぶ。 4. 消化器系の主な疾患, 治療について学ぶ。						
授業計画	単元	学 習 内 容						
	造血器系 (15時間)	1. 血液の生理と造血, 造血器疾患の症候・病態生理, 検査と診断						
		2. 赤血球系の異常(貧血;鉄欠乏性, 巨赤芽球性, 溶血性, 他)						
		3. 白血球系の異常(白血球減少症, 免疫不全 他)						
		4. 造血器腫瘍(白血病, 悪性リンパ腫, 多発性骨髄腫 他)						
		5. 血小板・血液凝固系の異常(出血傾向, 血小板減少性紫斑病, 血友病, 播種性血管内凝固 他)						
		6. アレルギー性疾患(花粉症, 蕁麻疹, 気管支喘息, アナフィラキシーショック 他)						
		7. 膠原病(全身性エリテマトーデス, 関節リウマチ, シーグレン症候群 他)						
		8. 終講試験						
	消化器系 (15時間)	9. 消化器の症状と徴候, 検査と治療・処置, 消化器疾患の検査(画像診断)						
		10. 上部消化管の疾患の病態と診断・治療① 炎症性疾患(逆流性食道炎, 急性・慢性胃炎, ヘリコバクターピロリ感染症)						
		11. 上部消化管の疾患の病態と診断・治療② 潰瘍性疾患(胃潰瘍, 十二指腸潰瘍), 腫瘍(食道癌, 胃癌)						
		12. 下部消化管の疾患の病態と診断・治療① 炎症性疾患(潰瘍性大腸炎, クロウン病, 虫垂炎), イレウス						
		13. 下部消化管の疾患の病態と診断・治療② 腫瘍(大腸ポリープ, 結腸癌, 直腸癌), 排便障害(便秘, 下痢)						
		14. 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断・治療① 炎症性疾患(肝炎, 胆管炎, 膵炎), 肝硬変, 腫瘍(肝癌, 胆嚢癌, 胆管癌, 膵癌)						
		15. 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断・治療② 脂肪肝, アルコール性肝炎, 胆石症 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療 鼠径ヘルニア, 腹膜炎						
		16. 終講試験						
評価方法		筆記試験100%(造血器系50%、消化器系50%) 疾病と治療Ⅱの評価は, 造血器系と消化器系の合計とする。						
教科書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器／医学書院						
参考書		系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] /医学書院						
備考		実務経験;消化器外科, 小児外科を中心として医業に携わり, 大学では微生物学, 免疫学の研究に従事した豊富な経験をふまえ基本的知識の講義を行う。 実務経験;医師として医業に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。 事前学習;講義内容の要約を事前に配布する。できれば, 教科書の学習内容の項目を事前に一読しておくこと。						

授業科目		疾病と治療Ⅲ (運動器系) (脳神経系)	担当講師	菊野竜一郎 杉原 一正	単位数	1	対象学生	2年次
					時間数	30	時期	通年
					授業方法		講義	
科目概要		1. 運動器系に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法を理解する。 2. 脳神経系の疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を修得し、脳神経系疾患の検査法および治療法について理解する。						
到達目標		1. 運動器系の主な症状、主な検査の種類と方法について学ぶ。 2. 運動器系の主な疾患、治療について学ぶ。 3. 脳神経系の主な症状、主な検査の種類と方法について学ぶ。 4. 脳神経系の主な疾患、治療について学ぶ。						
授業計画	単元	学 習 内 容						
	運動器系 (15時間)	1. 運動器系疾患の症状、検査と治療						
		2. 外傷性(外因性)疾患の理解						
		3. 内因性(非外傷性)疾患の理解						
		4. 骨・関節の疾患の症状と診断・治療(練習問題及び解答・解説)① 骨折, 脱臼, 捻挫, 骨粗鬆症, 神経損傷 他						
		5. 骨・関節の疾患の症状と診断・治療(練習問題及び解答・解説)② 腫瘍(骨肉腫), 変形性関節症 他						
		6. 骨・関節の疾患の症状と診断・治療(練習問題及び解答・解説)③ 腰痛症(椎間板ヘルニア, 腰部脊柱管狭窄症) 炎症性疾患(骨・骨髄炎, 関節炎) 他						
		7. 中枢神経系の疾患の症状と診断・治療(練習問題及び解答・解説) 脊髄損傷 他						
		8. 終講試験						
	脳神経系 (15時間)	9. 脳神経系の症状(頭蓋内圧亢進症 他)						
		10. 中枢神経系の疾患の症状と診断・治療① 脳血管障害(脳内出血, くも膜下出血, 脳梗塞, もやもや病)						
		11. 中枢神経系の疾患の症状と診断・治療② 腫瘍(脳腫瘍), 頭部外傷						
		12. 中枢神経系の疾患の症状と診断・治療③ 脱髄疾患(多発性硬化症), 変性疾患(パーキンソン病, 筋萎縮性側索硬化症)						
		13. 中枢神経系の疾患の症状と診断・治療④ 感染症(脳炎, 髄膜炎)						
		14. 中枢神経系の疾患の症状と診断・治療⑤ 認知症(アルツハイマー, 血管性認知症, レビー小体認知症) 機能性疾患(てんかん)						
		15. 末梢神経系の疾患の症状と診断・治療⑥ ギラン・バレー症候群, 圧迫性神経障害, 顔面神経麻痺						
		16. 終講試験						
評価方法		筆記試験100%(運動器系50%、脳神経系50%) 疾病と治療Ⅲの評価は、運動器系と脳神経系の合計とする。						
教科書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経／医学書院						
参考書		系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] /医学書院						
備考		実務経験;医師として医業に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目		疾病と治療Ⅳ (内分泌・代謝系) (感覚器系)	担当講師	植村 和代 徳留京子 芹澤慎生 米倉慎太郎	単位数	1	対象学生	2年次
					時間数	30	時期	通年
					授業方法		講義	
科目概要		1. 内分泌・代謝系に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を修得し、検査・治療の方法を理解する。 2. 感覚器系及び歯科口腔に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を修得し、検査・治療の方法を理解する。						
到達目標		1. 内分泌・代謝系の主な症状、主な検査の種類と方法について学ぶ。 2. 内分泌・代謝系の主な疾患、治療について学ぶ。 3. 感覚器系及び歯科口腔の主な症状、主な検査の種類と方法について学ぶ。 4. 感覚器系及び歯科口腔の主な疾患、治療について学ぶ。						
授業計画	科目	学 習 内 容						
	内分泌・代謝系 (15時間)	1. ホルモンの機能、代謝の概要						
		2. 内分泌系疾患の主な症状と検査						
		3. 内分泌系の疾患の症状と診断・治療① 間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患(機能亢進症、低下症、甲状腺炎)						
		4. 内分泌系の疾患の症状と診断・治療② 副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患						
		5. 内分泌系の疾患の症状と診断・治療③ 腫瘍(下垂体腫瘍、甲状腺癌)						
		6. 代謝異常の疾患の症状と診断・治療① メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病						
		7. 代謝異常の疾患の症状と診断・治療② 脂質異常症、高尿酸血症、痛風						
		8. 終講試験						
	感覚器系 (15時間)	9. 歯・口腔(1) 歯・口腔・唾液腺の構造と機能、咀嚼						
		10. 歯・口腔(2) 歯科疾患(う歯、歯周病)と治療						
		11. 耳鼻咽喉(1) 外耳・中耳・内耳の構造、聴力、平衡器官の構造 聴覚障害(難聴、メニエール病)						
		12. 耳鼻咽喉(2) 咽頭・喉頭の構造と機能、鼻の構造と機能 鼻・咽喉の疾患(咽頭炎、扁桃炎、舌癌、咽頭癌) 嗅覚障害						
		13. 眼(1) 視覚(眼球と眼球付属器、視力と視野、明暗覚、色覚、伝導路)						
		14. 眼(2) 視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症)						
		15. 皮膚 アレルギー性疾患(蕁麻疹、接触皮膚炎) 皮膚障害(アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎)						
		16. 終講試験						
評価方法		筆記試験100%(内分泌・代謝系50%、感覚器系50%の合計とする) 感覚器系: 歯・口腔; 15%, 耳鼻咽喉・眼; 25%, 皮膚; 10%とする						
教科書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[15] 歯・口腔／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13] 眼／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚／医学書院						
参考書		系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] /医学書院						
備考		実務経験; 医師として医業に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	疾病と治療Ⅴ (小児)	担当講師	久米 浩二 専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義	
科目概要		疾病をもつ小児の患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を修得し、検査・治療の方法を理解する。					
到達目標		1. 先天異常及び新生児の疾患について学ぶ。 2. 感染症について学び、予防法・予防接種について理解する。 3. 主な小児疾患の診断・治療について学ぶ。 4. 疾患が小児の成長・発達に及ぼす影響、心身症などについて理解する。					
授業計画	単元	学 習 内 容					
	小児 (15時間)	1. 小児の特徴と成長発達	小児の成長発達・発達課題について内容を充実させて 内分泌疾患				
		2. 感染症(風疹, 水痘, ムンプス, 突発性発疹, 百日咳, 溶レン菌感染症)	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患・感染症				
		3. 髄膜炎, 予防接種の種類	予防接種・呼吸器疾患と症状				
		4. 呼吸器疾患と主な症状;咳嗽, 喘鳴, 嘔声, 肺炎, 喘息	循環器疾患と症状				
		5. 循環器疾患(VSD, ASD, PDA, PS, TOF)と主な症状	消化器疾患と症状 チアノーゼ, 心不全				
		6. 消化器疾患と主な症状(下痢, 嘔吐, 腹痛)	消化器疾患 血液疾患・悪性新生物の疾患				
		7. 神経疾患(けいれん, CP)	腎・泌尿器および生殖器疾患, 神経疾患				
		8. 終講試験					
	小児 (15時間)	9. 運動器疾患・皮膚疾患・感覚器疾患					
		10. 胎内環境のより発症する先天異常, 新生児の疾患(分娩損傷・適応障害)					
		11. 低出生体重児の看護, 成熟異常					
		12. 代謝性疾患(新生児マススクリーニング・先天代謝異常・代謝性疾患)					
		13. 子どもの精神疾患(子どものこころの反応とその特徴)					
		14. 子どもの精神疾患(発達障害・統合失調症と双極性障害・抑うつ障害)					
		15. 子どもの事故と外傷					
		16. 終講試験					
評価方法		筆記試験100%(1～7;50%、9～15;50%) 疾病と治療Ⅴの評価は、2回の終講試験の合計とする。					
教科書		系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 /医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 /医学書院					
参考書		系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] /医学書院					
備考		実務経験;医師として医業に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。 実務経験;助産師として小児看護に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。					

授業科目	疾病と治療Ⅵ (女性生殖器系) (腎・泌尿器系)	担当講師	専任教員 内田 洋介	単位数	1	対象学生	2年次	
				時間数	30	時期	通年	
				授業方法		講義		
科目概要		1. 女性生殖器に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を修得し、検査・治療の方法を理解する。 2. 腎・泌尿器および男性生殖器に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を修得し、検査・治療の方法を理解する。						
到達目標		1. 女性生殖器の主な症状と検査・治療について学ぶ。 2. 女性生殖器の主な疾患について理解する。 3. 腎・泌尿器および男性生殖器疾患の原因・成因、症候について理解する。 4. 腎・泌尿器および男性生殖器疾患の検査・診断法、治療法について理解する。 5. 腎・泌尿器および男性生殖器疾患の合併症、予後について理解する。						
授業計画	単元	学 習 内 容						
	女性生殖器系 (15時間)	1. 女性生殖器の機能と構造、女性生殖における診察、検査と治療・処置						
		2. 生殖器系の疾患の病態と診断・治療①(子宮)						
		3. 生殖器系の疾患の病態と診断・治療②(子宮の疾患・悪性腫瘍)						
		4. 生殖器系の疾患の病態と診断・治療③(性感染症)						
		5. 生殖器系の疾患の病態と診断・治療④(卵管・卵巣の疾患、異所性妊娠)						
		6. 生殖器系の疾患の病態と診断・治療⑤(乳房・乳腺)						
		7. 生殖機能障害(月経異常、更年期障害、不妊)						
		8. 終講試験						
	腎・泌尿器系 (15時間)	9. 腎・泌尿器、男性生殖器疾患の症状とその病態生理 頻尿、尿失禁、浮腫、脱水、酸塩基平衡の障害						
		10. 透析療法、腎移植						
		11. 泌尿器系の疾患の病態と診断・治療① 腎不全、急性腎障害、慢性腎臓病						
		12. 泌尿器系の疾患の病態と診断・治療② 排尿障害(過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症) 炎症性疾患(腎盂腎炎、膀胱炎)						
		13. 泌尿器系の疾患の病態と診断・治療③ 腎・尿路結石、腫瘍(腎癌、尿管癌、膀胱癌)						
		14. 男性生殖器の疾患(前立腺炎、前立腺肥大、前立腺癌)						
		15. 精巣および性機能障害						
		16. 終講試験						
	評価方法		筆記試験100%(女性生殖器系50%、腎・泌尿器系50%) 疾病と治療Ⅵの評価は、女性生殖器系と腎・泌尿器系の合計とする。					
	教科書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器／医学書院					
	参考書		系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] /医学書院					
備考		実務経験;助産師として女性生殖器疾患に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。 実務経験;医師として医業に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	医療概論	担当講師	吉家 清貴	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	後期
				授業方法		講義	
科目概要	医療の発展や、現代医療のシステム、現代医療を取り巻く諸問題について理解する。						
到達目標	1. 医療の歩みや医療観の変遷を理解する。 2. 医療の発展や諸問題を学び、生命の価値や生きることの意義、医の倫理について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 医療の現状、医療の歩みと医療観の変遷						
	2. 援助と共感—看護のこころ・専門職としての医師と看護師 援助するものとされるもの・パターンリズム						
	3. 医療と看護の原点						
	4. 私たちの生活と医療						
	5. 技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題						
	6. 成熟する社会と人々の意識改革						
	7. 医療を見つめなおす新しい視点 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流						
	8. 終講試験・まとめ						
	評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%					
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 健康支援と社会保障制度〔1〕 / 医学書院						
参考書	講義に関するプリントを配布						
備考	プロジェクターによる視覚教材を使用する。 実務経験; 医師として医業に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	公衆衛生 I	担当講師	安藤 哲夫	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	前期
				授業方法		講義	
科目概要	公衆衛生の概念, 特に自然環境・社会環境から影響を受ける人々の健康を理解し, そのことに関する様々な政策や施策の実践の重要性を学ぶ。						
到達目標	1. 公衆衛生の概念, 方法の基礎を学ぶ。 2. 環境諸要因が個人・集団の健康や社会生活に及ぼす影響について理解を深める。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 公衆衛生の理念と理解 公衆衛生とはなにか, 公衆衛生の歴史, プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション						
	2. 公衆衛生の活動対象; ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ 公衆衛生の仕組み・政策の展開・保健所と保健センター						
	3. 集団の健康 人口・保健統計・死因・寿命 疫学的因果関係・分析疫学の手法・エビデンス						
	4. 環境と健康(1) 地球規模の環境と健康 地球温暖化・オゾン層の破壊・水質汚濁 大気汚染・アスベスト・土壌汚染・放射性物質						
	5. 環境と健康(2) 身のまわりの環境と健康 室内環境・食品の安全確保・家庭用品の安全対策・ごみ廃棄物問題・バリアフリー 対策						
	6. 感染症とその予防策 感染症の成立要因・感染症の予防対策・院内感染の予防・公衆衛生上の重要な感染症と対策						
	7. 国際保健; 国際保健の担い手・国際保健の共通目標						
	8. 終講試験・まとめ						
	評価方法	筆記試験100%					
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度[2] / 医学書院						
参考書	国民衛生の動向						
備考	実務経験; 公衆衛生分野の研究者としての知識をもとに講義を行う。						

授業科目	公衆衛生Ⅱ	担当講師	安藤 哲夫	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	後期
				授業方法		講義	
科目概要	地域や組織内での公衆衛生活動について、時代とともに変化するライフステージでの人々の健康に及ぼす影響について学び、具体的な政策や施策を理解する。						
到達目標	1. 公衆衛生活動のさまざまな実践活動を学び、人々の健康を守るための組織・機関及び医療従事者の役割を学ぶ。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 地域における公衆衛生の実践(1) 公衆衛生看護・保健指導・訪問指導，母子保健；母体保護・育児のための活動						
	2. 地域における公衆衛生の実践(2) 成人保健；疾病予防・生活習慣病予防・特定健康診査・特定保健 指導・喫煙・がん対策						
	3. 地域における公衆衛生の実践(3) 高齢者保健；高齢化社会・地域包括ケアシステム，精神保健；障害者総合支援法・自殺予防対策						
	4. 地域における公衆衛生の実践(4) 歯科保健；口腔保健・齲歯予防・口腔ケア，障害者保健・難病保健						
	5. 学校と健康 学校保健活動・学校保健と看護職，特別な支援を必要とする子供たち						
	6. 職場と健康 労働安全衛生法・トータルヘルスプロモーション・ワークライフバランス						
	7. 健康危機管理・災害保健；健康危機管理体制・災害時の医療体制・災害時の保健活動						
	8. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験100%						
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度[2]／医学書院						
参考書	国民衛生の動向						
備考	実務経験；公衆衛生分野の研究者としての知識をもとに講義を行う。						

授業科目	社会保障・社会福祉	担当講師	久留須直也	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	本講義では,「社会福祉とは何か」という点を含め, 現代社会における社会福祉の動向や理念をマクロ的視点から整理する。その後, 医療保障・介護保障・所得保障・公的扶助・障害者福祉・児童家庭福祉などのミクロ的視点で社会福祉の法制度や課題についても整理していく。 また, 社会福祉における専門職である「ソーシャルワーカー」が展開するソーシャルワークについても事例を通して理解を深め, 実際にソーシャルワークの援助技法をロールプレイを通して体験する。						
到達目標	1. 社会福祉が私達の身近な生活の中に深く関わり, 生活を支えているものであることを理解する。 2. 社会福祉の基本的知識・理解を深める。 3. 社会福祉の法律や制度の仕組みについて理解する。 4. 社会福祉における相談援助技法(ソーシャルワーク)について理解する。 5. 社会福祉の歴史, 近年の動向と課題について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 社会保障と社会福祉						
	2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向						
	3. 医療保障①(沿革・構造と体系・健康保険と国民健康保険)						
	4. 医療保障②(高齢者医療制度・保険診療・公費負担医療・国民医療費)						
	5. 所得保障①(年金保険制度)						
	6. 所得保障②(社会手当・労働保険制度)						
	7. 公的扶助						
	8. 高齢者福祉・介護保障①(介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史)						
	9. 介護保障②(介護保険制度の概要・課題と展望)						
	10. 障害者福祉①(障害者の定義)						
	11. 障害者福祉②(障害者総合支援法)						
	12. 児童家庭福祉						
	13. 社会福祉実践と医療・看護①(ソーシャルワーク演習)						
	14. 社会福祉実践と医療・看護②(ソーシャルワーク理論・連携・医療ソーシャルワーク)						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験80%, コメントシートの提出10%, 学習態度及び授業への意欲10%						
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度[3]/医学書院						
参考書	『国民の福祉と介護の動向 2024/2025』厚生労働統計協会(2024. 9発行) ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2024[令和6年版]』						
備考	第1回目の講義時に講義資料集を配布するので, 毎回持参すること。 実務経験;社会福祉士として医療機関での勤務経験をもち, 社会福祉全般について講義を行う。						

授業科目	看護関係法令Ⅰ (関係法規)	担当講師	田畑 千穂子	単位数	1	対象学生	3年次
				時間数	15	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	医療・看護に必要な関係法規や看護政策について学び, 看護業務の範囲や法的内容を理解する。						
到達目標	1. 法のしくみや厚生労働行政について理解する。 2. 人間の生活と法律の関係について学び, 生活者の健康を守る諸法規を理解する。 3. 看護活動に関連する諸法規を理解し, 専門職として法の知識の必要性がわかる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 法の概念, 厚生労働行政のしくみ, 看護関係法令を学ぶ意味						
	2. 保健師助産師看護師法 目的・免許・業務・試験・学校養成所						
	3. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 目的・定義, 看護師等の人材確保の促進, ナースセンターの役割						
	4. 医事に関する法規; 医師法・医療法 薬事に関する法規; 毒物及び劇薬取締法, 麻薬及び向精神薬取締法						
	5. 保健衛生に関する法規, 社会福祉に関する法規; 社会保障の理念, 社会保険制度, 公的扶助等						
	6. 地域保健法, 健康増進法						
	7. 労働に関する法規と社会基盤整備に関する法規						
	8. まとめ, 終講試験						
	評価方法	筆記試験80% 課題レポート10% 授業への参加態度10%					
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度[4] / 医学書院						
参考書							
備考	実務経験; 看護師・助産師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	看護関係法令Ⅱ (看護政策)	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	3年次
				時間数	15	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護行政の仕組みと安全で質の高い看護を提供する為に必要な看護政策のあり方を学ぶ。また, 看護(医療)過誤の事例を通して法的責任や事故防止対策について学ぶ。						
到達目標	1. 社会の仕組みの中で, 看護の改善の為の看護政策のあり方を理解する。 2. 看護政策の充実・強化を図るための戦略についての概要がわかる。 3. 看護過誤の事例をもとに法的責任の基礎的な問題と事故防止対策について考える。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 看護政策とは何か;我が国における看護政策および政策過程						
	2. 看護に影響を及ぼす法令・政策および課題について						
	3. 医療経済と看護;看護サービスと経済の仕組み, 診療報酬体系						
	4. 診療報酬と看護職員人員配置, 特定の看護技術の評価						
	5. 看護教育および卒後研修についての現状と課題						
	6. 看護(医療)事故の現状と法的責任について;事例検討 看護過誤判例;個人情報取り扱い, 転倒・転落, 院内感染等						
	7. 事故防止対策について;グループワーク　まとめ						
	8. 終講試験						
評価方法	筆記試験80%　課題レポート10%　授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　看護関係法令　健康支援と社会保障制度[4]　／医学書院 系統看護学講座　専門分野　看護学概論　基礎看護学[1]　／医学書院						
参考書	看護職者のための政策過程入門　日本看護協会出版						
備考	実務経験;看護師・助産師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	基礎看護学概論	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護の歴史をふまえ, 看護の基盤となる様々な看護の概念を学び, 看護の現状について, 保健・医療・福祉の広い視野で捉え, 看護の機能・役割を理解する。また, 人間理解を基盤とし, 看護の専門職業人としての基礎的な能力を養う。						
到達目標	1. 「看護とは何か」を学ぶことにより看護の目的・看護の対象・看護の方法とは何か理解する。 2. 看護の歴史的変遷, 今後の看護の課題と展望について考える。 3. 専門職としての看護の役割と機能を理解する。 4. 看護における倫理の基本的知識を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 私の思う看護, 私が看護師を目指す理由について語ろう						
	2. 看護の変遷;近代看護の確立, 日本の看護の発展						
	3. 看護の定義, 看護師の責務, 看護理論家にみる看護の定義						
	4. 看護の役割と機能, 看護実践とその質保証に必要な要件						
	5. 看護の継続性と多職種チームとの連携のあり方						
	6. 看護の対象の理解①「こころ」と「からだ」						
	7. 看護の対象の理解②「成長と発達」と「生活者として」						
	8. 健康の捉え方と国民の健康状態						
	9. 国民の健康に関する統計						
	10. 看護の発展と看護教育制度						
	11. 看護師はなぜ専門職と言えるのか						
	12. 看護における倫理と価値						
	13. 看護実践における倫理的問題						
	14. 保健医療福祉システムと看護サービス提供の場						
	15. 終講試験						
評価方法	筆記試験70% 提出物20% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論／医学書院 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護/日本看護協会出版						
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ／医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践／ヌーベルヒロカワ						
備考	1つ1つの言葉の意味を考え, 自分の言葉で看護を表現できることを目指します。 授業を通して看護への関心を高め各領域の看護へ発展させていきましょう。 実務経験;看護師・助産師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	ヘルスアセスメント論	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護に必要となる生活者の「身体的」な情報のみならず, 「成長発達」「心理・社会」を含めた包括的な視点から生命の兆候を捉える基本技術を学ぶ。また, 事例を通して系統別身体診査技術を学び実践的なアセスメント能力を高める。						
到達目標	1. 看護におけるヘルスアセスメントの意義と目的を理解する。 2. 系統的にフィジカルアセスメントの技術を理解する。 3. ヘルスアセスメントによって得られた結果を実際のケアに結びつけていく態度を養う。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. ヘルスアセスメントとは						
	2. バイタルサインの観察とアセスメント 体温・意識						
	3. バイタルサインの観察とアセスメント 呼吸・SPO ₂						
	4. バイタルサインの観察とアセスメント 血圧・脈拍						
	5. バイタルサイン測定の実際 演習						
	6. バイタルサイン測定の実際 演習						
	7. フィジカルアセスメントの基本技術 視診・触診・打診・聴診						
	8. 系統別フィジカルアセスメント 呼吸器系						
	9. 系統別フィジカルアセスメント 循環器系						
	10.事例で学ぶフィジカルアセスメント 演習						
	11. 系統別フィジカルアセスメント 腹部, 感覚器						
	12.系統別フィジカルアセスメント 筋・骨格系, 神経系						
	13.系統別フィジカルアセスメント 心理・社会的側面						
	14. 事例で学ぶフィジカルアセスメント 演習						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験70% 提出物20% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I / 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 / 医学書院						
参考書	看護が見えるvol. 3フィジカルアセスメント / メディックメディア						
備考	フィジカルアセスメントの基礎知識と基本技術の修得は臨地実習を行うための基本である。演習は, 知識・技術の修得をすることと心得て参加して欲しい。 実務経験 / 看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	生活援助論Ⅰ	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護実践の基礎として安全確保, 感染防止, 環境調整の基本的看護技術について知識と技術を学ぶ。また, 状況に応じた看護ケアを根拠に基づいて行なえるよう教育的視点を含めた基礎的な能力を高める。						
到達目標	1. 看護における安全・安楽の意義を理解した看護技術を理解する。 2. 生活環境を整える意義と方法を理解した看護技術を理解する。 3. 感染とその予防の基礎知識を理解した看護技術を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 安全で快適な病室・病床環境のアセスメントと調整の実際 安全確保の技術(安全確保の基礎知識・安全を阻害する因子)						
	2. ベッドメイキングの目的と根拠・方法						
	3. ベッドメイキングの実際 演習①						
	4. ベッドメイキングの実際 演習②						
	5. 感染とその予防の基礎知識(感染成立条件)						
	6. 感染経路別予防策・洗浄, 消毒, 滅菌, 感染性廃棄物の取り扱い						
	7. 標準予防策の基礎知識・対策(手洗い・手袋・ガウンテクニック・マスク)						
	8. スタンダードプリコーションに基づく標準予防策 演習①						
	9. 環境整備とリネン交換 演習①看護師役と患者役を交互に学び合う						
	10. 無菌操作の基礎知識・対策の実際 カテーテル関連血流感染対策・針刺し防止策						
	11. 感染を予防する技術(無菌操作) 演習①						
	12. 感染を予防する技術(無菌操作) 演習②						
	13. 苦痛の緩和 安楽確保の技術						
	14. 苦痛の緩和 安楽確保の技術の実際(ポジショニング・電法)						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験90% 提出物・授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ／医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術／医学書院						
参考書	目で見える体のメカニズム／医学書院						
備考	基礎的な知識と技術が不可欠な分野である。教科書を熟読し予習復習を行い講義に参加して欲しい。 実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	生活援助論Ⅱ	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	生命維持に必要な不可欠な食と排泄の意義を理解し, 日常生活行動援助技術について, 食事・排泄ケアの知識・技術を学ぶ。また, 教育的視点を含めた基礎的能力を高める。						
到達目標	1. 人間にとっての食の意義を理解し, 栄養を整える方法と技術を学ぶ。 2. 人間にとっての排泄の意義を理解し, 排泄を整える方法と技術を学ぶ。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 食事の意義・栄養状態および食欲・摂取能力のアセスメント						
	2. 食事の援助 安全な経口摂取への援助① 嚥下体操, 呼吸, 発声訓練など						
	3. 安全な経口摂取への援助② 誤嚥時の対処						
	4. 経鼻経管栄養法, 経瘻管法						
	5. 対象に適した援助方法の実際 演習						
	6. 人間の排泄に関する意義・メカニズム						
	7. 排泄援助に必要なアセスメントの視点						
	8. 排尿障害時の援助方法						
	9. 一時的導尿について 演習① 看護師役と患者役を交互に学び合う						
	10. 一時的導尿について 演習② 看護師役と患者役を交互に学び合う						
	11. 排便障害時の援助について						
	12. 浣腸の種類と適応・敵便の適応について ストーマケアの基本的知識						
	13. グリセリン浣腸の援助の実際 演習① 看護師役と患者役を交互に学び合う						
	14. グリセリン浣腸の援助の実際 演習② 看護師役と患者役を交互に学び合う						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験80% 提出物10% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ／医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術／医学書院						
参考書	イラストでわかる基礎看護学技術／日本看護協会 ストーマケア／学研						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	生活援助論Ⅲ	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護技術における安全・安楽の意義を理解し, 日常生活行動援助技術として活動・休息のバランスを整える知識・技術を学ぶ。また, 教育的視点を含めた基礎的能力を高める。						
到達目標	1. 活動・休息の意義を理解し, 健康との関連を学ぶ。 2. 健康障害が体位に及ぼす影響を理解し, 援助の必要性を学ぶ。 3. ボディメカニクスを活用し, 原理・原則に基づいた基礎的な技術を習得する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 人間にとっての活動・休息の意義						
	2. 体位とは ボディメカニクスについて						
	3. 移動と移送の援助① 体位変換						
	4. 仰臥位から側臥位・端坐位への体位変換の実際① 演習						
	5. 仰臥位から側臥位・端坐位への体位変換の実際② 演習						
	6. 移動と移送の援助② 車椅子への移乗・移送(全介助・片麻痺 他)						
	7. 移動と移送の援助③ ストレッチャーへの移乗・移送, 移乗用リフトを用いる場合の援助						
	8. 車椅子及びストレッチャー移乗・移送の実際① 演習						
	9. 車椅子及びストレッチャー移乗・移送の実際② 演習						
	10. 移動と移送の援助④ 歩行介助(歩行器・歩行補助具使用)						
	11. 移動と移送の援助⑤ 関節可動域訓練						
	12. 歩行介助, 関節可動域訓練 演習						
	13. 廃用症候群予防, 褥瘡予防						
	14. 睡眠・休息の援助						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験80% 提出物10% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ／医学書院						
参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術／医学書院 目で見える体のメカニズム／医学書院 看護の基礎技術Ⅰ／学研 イラストで見る基礎看護学技術／日本看護協会						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	生活援助論Ⅳ	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	人間にとって清潔・衣生活の意義を理解し, 日常生活行動援助技術として知識・技術を習得する。また, 健康の充足・維持増進のために必要な安全・安楽な基礎的能力を高める。						
到達目標	1. 人間にとっての清潔の意義とその個別性について理解する。 2. 衣服が持つ生理的・心理的・社会的な意味について理解する。 3. 安全・安楽に配慮した足浴・洗髪・清拭の基本的技術を習得する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 人間にとっての清潔・衣生活の意義 清潔状態のアセスメント						
	2. 身体の清潔を保つための援助方法 ①入浴・シャワー浴						
	3. 身体の清潔を保つための援助方法 ②全身清拭と寝衣交換						
	4. 全身清拭と寝衣交換の実際 演習 ①看護師役と患者役を交互に学び合う						
	5. 全身清拭と寝衣交換の実際 演習 ②看護師役と患者役を交互に学び合う						
	6. 身体の清潔を保つための援助方法 ③陰部洗浄						
	7. 陰部洗浄の実際 演習						
	8. 身体の清潔を保つための援助方法 ④手浴 ⑤足浴						
	9. 手浴・足浴の実際 演習 ①看護師役と患者役を交互に学び合う						
	10. 手浴・足浴の実際 演習 ②看護師役と患者役を交互に学び合う						
	11. 頭皮・頭髪の援助方法						
	12. 洗髪の実際 演習 ①看護師役と患者役を交互に学び合う						
	13. 洗髪の実際 演習 ②看護師役と患者役を交互に学び合う						
	14. 口腔の援助方法 口腔ケアの実際 全体のまとめ						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験80% 提出物10% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ／医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術／医学書院						
参考書	目で見える体のメカニズム／医学書院						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	人間関係成立の 技術	担当講師	大田 真司 専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	一般的な人間関係の在り方から看護場面での専門的な援助関係において, コミュニケーションが円滑になるような様々なコミュニケーション技術を学習する。また, 看護理論を活用し患者－看護師関係について基礎能力を高める。						
到達目標	1. コミュニケーションの概念について理解する。 2. コミュニケーションの分類について学習し, コミュニケーションの特性について理解する。 3. コミュニケーションのプロセスに影響する要因について理解する。 4. コミュニケーション技術について理解し看護に活用できる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. コミュニケーションの概念						
	2. コミュニケーションの分類						
	3. コミュニケーションのプロセスに影響する要因						
	4. コミュニケーションセンスを磨く技術 (聴く・話す) 演習①						
	5. コミュニケーションセンスを磨く技術 (共感的理解) 演習②						
	6. コミュニケーションセンスを磨く技術 (読みとることと表現すること) 演習③						
	7. コミュニケーションセンスを磨く技術 (アサーション) 演習④						
	8. コミュニケーションセンスを磨く技術 (相手を知り, 相手を活かす) 演習⑤						
	9. プロセスレコードの概要						
	10. プロセスレコードの活用方法						
	11. 看護におけるカンファレンスの意義						
	12. 臨地実習後のコミュニケーションの振り返り						
	13. 臨地実習における事例を通してのコミュニケーション 演習①						
	14. 臨地実習における事例を通してのコミュニケーション 演習②						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験80% 提出物10% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ／医学書院						
参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術／医学書院						
備考	基礎看護学実習Ⅰ-2の実習終了後コミュニケーション演習を行うため, 日常生活において机上で学習したコミュニケーション技法を意識しながらコミュニケーション能力の向上に努める。 実務経験; 看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	看護倫理	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	20	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護における倫理について具体的な内容を知り, 倫理的課題について理解する。また, その倫理的意思決定では事例を用いて, 看護実践で遭遇する問題や倫理的ジレンマを秩序立てて検討し, 看護者としてなすべきことを判断し行動に結びつく根拠が理解できる。						
到達目標	1. 看護における倫理についての具体的な内容を知り, 倫理的課題について理解する。 2. 看護実践で遭遇する問題事例を通して倫理的意思決定支援について理解する。 3. 看護者としてなすべきことを判断し行動に結びつく根拠を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 看護倫理の基礎知識 ①倫理の基礎 ②看護倫理の基礎 ③原則の倫理						
	2. 看護職に求められる倫理 専門職とは 看護専門職組織の役割と倫理綱領						
	3. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 患者の権利とインフォームド・コンセント						
	4. 患者の意思決定支援と守秘義務						
	5. 現代社会における倫理的問題 遺伝子診断・治療, 移植医療, 再生医療をめぐる倫理的問題						
	6. 看護実践における倫理問題への取り組み① 倫理的ジレンマ, ケアの倫理・ケアリングの倫理, 倫理的態度						
	7. 看護実践における倫理問題への取り組み② 看護実践場面での事例分析						
	8. 看護実践における倫理問題への取り組み③ 看護実践場面での事例発表						
	9. 倫理的課題に取り組むためのしくみ 臨床倫理委員会 研究倫理委員会						
	10. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験70% 提出物20% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論／医学書院						
参考書	系統看護学講座 別巻 看護倫理／医学書院 看護の基本的責務 2019年版 日本看護協会出版社						
備考	看護実践の現場で倫理的問題に遭遇します。重要な言葉の理解をし, 原則の倫理に基づき倫理的判断を考え倫理的行動の実践につながるよう予習・復習する。 実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	診療の補助 技術論	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護師の役割である診療補助について, 治療・処置に伴う危険性, 法的責任を理解し, 安全・安楽な援助方法を学ぶ。また, 与薬や輸血における看護援助や副作用を理解する。治療・検査・処置における看護師の役割について演習を通して基礎的な看護援助技術を高める。						
到達目標	1. 与薬の基礎知識を身に付け, 正確な与薬, 注射の実際を学ぶ。 2. 症状・生体機能管理技術の基礎的知識・技術を学ぶ。 3. 診察・検査・処置の介助技術の実際を学ぶ。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 与薬の基礎知識(吸収経路, 看護師の役割) 与薬法① 経口与薬, 口腔内与薬, 吸入						
	2. 与薬法② 点眼, 点鼻, 経皮的与薬, 直腸内与薬, 注射の基礎知識						
	3. 注射の実施法① 皮下注射, 皮内注射, 筋肉内注射						
	4. 筋肉内注射の実施(演習)① 看護師役と患者役を交互に行い, 学びあう。						
	5. 筋肉内注射の実施(演習)② 看護師役と患者役を交互に行い, 学びあう。						
	6. 注射の実施法② 静脈内注射, 点滴静脈内注射						
	7. 静脈内注射の実施(演習;輸液ライン, ポンプの使用含む)① 看護師役と患者役を交互に行い, 学びあう。						
	8. 静脈内注射の実施(演習;輸液ライン, ポンプの使用含む)② 看護師役と患者役を交互に行い, 学びあう。						
	9. 輸液の実施法 中心静脈カテーテル留置の介助 輸血管理;輸血の種類・副作用・援助の実際						
	10. 症状・生体機能管理技術① 検体検査(血液, 血糖測定, 尿・便・喀痰検査)						
	11. 症状・生体機能管理技術② 生体情報のモニタリング(心電図, 中心静脈圧)						
	12. 検査・処置の介助① CT, MRI, 超音波, 肺機能検査, 穿刺						
	13. 検査・処置の介助② 呼吸・循環を整える技術(吸入・酸素療法, 吸引)						
	14. 吸引の技術(演習) 口腔内吸引, 気管内吸引						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験 90% 授業への参加態度/提出物 10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ／医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術／医学書院						
参考書							
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	共通基本技術 演習	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護の質向上に向けて, 看護過程における概念, 構成要素, 看護上の問題を明確にする理由・方法を学ぶ。そのうえで事例を活用し, 科学的思考と問題解決思考に基づいて抽出された, 看護問題・看護計画を看護実践・評価する展開過程から個別的な看護の基礎的能力を養う。						
到達目標	1. 看護過程の意義を理解し, 科学的思考と問題解決に基づいた看護過程展開の技術を理解する。 2. 模擬患者の看護過程を展開し, 看護サービスの提供方法を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 看護過程の基本となる考え方 看護過程とは 看護過程の5つの構成要素						
	2. 看護を展開する技術(アセスメント) ①情報収集・整理						
	3. 看護を展開する基本技術(アセスメント) ②情報の分析 クリティカルシンキングの考え方 リフレクション						
	4. 看護を展開する基本技術(看護問題の明確化, 看護診断)						
	5. 看護を展開する基本技術(看護計画)						
	6. 看護を展開する技術(実施・評価)						
	7. 看護サービスを考える;看護理論(人間・健康・環境・看護) マズローの階層的ニード, ヘンダーソンの14の基本的ニードほか						
	8. 事例展開① 対象理解;情報収集, 情報の整理 演習						
	9. 事例展開② 対象理解;情報の分析, 援助の必要性の判断 演習						
	10. 事例展開③ 対象理解;関連図(全体像理解) 演習						
	11. 事例展開④ 全体像理解, 看護問題の明確化, 問題リストの作成 演習						
	12. 事例展開⑤ 看護の方向性確認(看護問題追加修正) 対象への影響を考えると計画の重要性を考えると 演習						
	13. 事例展開⑥ 看護目標設定, 対象に応じたサービス(具体策) 演習 対象への影響を考えると計画の重要性を考えると対象に応じたサービスを考える						
	14. 事例展開⑦ 提供したサービスの妥当性を評価(経過記録記入)						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験 40% 提出物(事例展開)・授業態度 60%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ／医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン 看護論の実践／ヌーヴェルヒロカワ						
参考書	病気・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図／医学書院 やさしく学ぶ看護理論／日総研						
備考	事例展開を行いながら, 対象に応じた看護サービスを具体的に考える。 展開毎の課題に対し, 演習を行いその都度評価を行う。 実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	健康回復支援論	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	ウェルネスの考え方にもとづき, 健康障害をもつ対象を理解し, 経過・症状別各期にある対象・家族の身体的・心理的・社会的特徴, それに伴う必要な看護を学ぶ。また, 事例を通して健康障害をもつ対象の経過に必要な支援について考え, より健康的な生活へ導く看護に活用できる基礎的能力を養う。						
到達目標	1. 健康障害をもつ対象を生活者にとらえ, ウェルネスを指向した看護について理解する。 2. 健康障害をもつ対象とその家族の特徴を理解し, 対象のニーズに基づいた看護を理解する。 3. 事例演習を通して, より健康的な生活への支援方法を考察し理解する。 4. 看護における指導の目的を理解し, 人間の成長を促すための基礎的な看護技術が修得できる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 経過別看護とは何か 急性期の経過 急性の経過をたどる対象の理解						
	2. 急性期看護の特徴・救命救急処置の基礎知識						
	3. 周手術期看護・集中治療室						
	4. 回復期の経過 回復の経過をたどる対象の理解						
	5. 回復期看護の特徴 リハビリテーション						
	6. 慢性期の経過 慢性の経過をたどる対象の理解						
	7. 慢性期看護の特徴・看護における指導技術						
	8. 慢性期看護における指導技術(グループワーク/指導案作成)						
	9. 慢性期看護における指導技術(グループワーク/パンフレット作成)						
	10. 慢性期看護における指導技術(発表/前半グループ)						
	11. 慢性期看護における指導技術(発表/後半グループ)						
	12. 終末期の経過						
	13. 終末期の対象の理解						
	14. 終末期における看護の役割						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験80% 提出物10% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ/医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論/医学書院						
参考書	随時紹介する。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	基礎看護学実習 I	担当講師	専任教員	単位数	2	対象学生	1年次
				時間数	75	時期	前期
				授業方法		臨地実習	
科目概要	学んだ基礎的な知識や看護技術を使い、対象の療養生活・生活環境の理解に向けて見学・指導を受けることで看護の対象について理解できる。また、看護の対象を理解したうえで必要な看護の役割や機能について考え、個別性に合わせた看護実践をするための基礎的能力を養う。						
到達目標	1. 対象の療養生活・生活環境における看護活動を通して看護の対象を理解する。 2. 看護師として、ふさわしい行動がとれる。 3. 受け持ち患者を理解し、必要な基本技術を用いて個別性のある日常生活援助が実践できる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間 <基礎看護学実習 I -1> 1単位(30時間)						
	病院実習;1日 8.0時間						
	地域実習;1日 8.0時間						
	学内実習 実習前;1日 8.0時間, 実習後;1日 6.0時間						
	<基礎看護学実習 I -2> 1単位(45時間)						
	病院実習;4日 (8.0時間/日)						
	学内実習 実習前;1日 8.0時間, 実習後;1日 5.0時間						
	2. 実習施設 病院実習;公益社団法人鹿児島共済会 南風病院,						
	社会医療法人緑泉会 米盛病院, 鹿児島市医師会病院,						
	鹿児島厚生連病院, 総合病院 鹿児島生協病院,						
	公益財団法人慈愛会 今村総合病院,						
	社会医療法人青雲会 青雲会病院						
	地域実習;鹿児島市社会福祉協議会 鹿児島市高齢者福祉センター						
(伊敷・吉野・与次郎・谷山), リハプラザふれんどみなみ							
3. 詳細は実習要領参照のこと							
評価方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面談を総合して行う。						
授業に関する留意点	1. 各オリエンテーションには実習要項を持参して出席のこと。 2. 学内実習前・後では、対象理解や基礎看護技術に関する教科書を準備しましょう。 3. 記録物などの提出期限を遵守しましょう。 4. 実習に関連する文献の収集を行い自己学習を進める。 5. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。 6. 看護技術の実施は指導者のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ	担当講師	専任教員	単位数	2	対象学生	2年次
				時間数	90	時期	後期
				授業方法		臨地実習	
科目概要	一人の患者を受け持ち、問題解決思考プロセスを用いて看護過程の展開ができることを目的とする。また、受け持ち患者を理解し、必要な基本技術・援助技術を用いて日常生活援助が実践でき、受け持ち患者に応じた看護援助の方法や看護の役割が理解できる。						
到達目標	1. 情報収集の技術を用い対象を理解し、全体像を捉えることができる。 2. 看護過程を展開し、科学的根拠に基づく個々に応じた援助が実践できる。 3. 看護の役割について理解でき、自己の看護観を述べることができる。 4. 医療チームの一員として自覚と責任を認識し行動することができる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間 病棟実習 9日間（9時間/日）						
	学内実習 実習前(4.0時間/日) 実習後(5.0時間/日)						
	2. 実習施設 公益社団法人鹿児島共済会 南風病院,						
	社会医療法人緑泉会 米盛病院, 鹿児島市医師会病院,						
	鹿児島厚生連病院, 総合病院 鹿児島生協病院,						
	公益財団法人慈愛会 今村総合病院,						
	社会医療法人青雲会 青雲会病院						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
	評価方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面談を総合して行う。					
授業に関する留意点	1. 各オリエンテーションには実習要項を持参して出席のこと。 2. 学内実習前・後では、対象理解や基礎看護技術に関する教科書を準備しましょう。 3. 記録物などの提出期限を遵守しましょう。 4. 実習に関する文献の収集を行い自己学習を進める。 5. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。 6. 看護技術の実施は指導者のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目	地域・在宅 看護論概論	担当講師	専任教員 田代 夏子	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	地域で療養する人々だけでなく、生活する人々とその家族を看護の対象とするとともに、療養の場の拡大を踏まえ、多様な場での地域・在宅看護の概念と変遷について理解する。また、地域包括ケアシステム、地域共生社会に向けた保健・医療・福祉の活動の場と地域で暮らす人々と家族の健康と暮らしを支える看護の役割について理解する基礎的能力を養う。						
到達目標	1. 地域で生活する人々を対象にした看護の概念について理解する。 2. 地域における看護の場の多様性について理解する。 3. 地域包括ケアシステムについて理解する。 4. 地域の特性や看護問題を把握するための方法を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 地域・在宅看護論を学ぶ背景						
	2. 人々の暮らす地域の多様性 演習						
	3. 地域包括ケアシステムと地域共生社会とは						
	4. 地域包括ケアシステムと「自助・互助・共助・公助」 演習						
	5. 地域・在宅看護の対象者(ライフステージ・健康レベルの多様性)						
	6. 地域で暮らす人々と家族の理解・演習						
	7. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用						
	8. 訪問看護の制度						
	9. 高齢者を支える制度・演習						
	10. 地域・在宅看護の実践の場～多職種連携 演習						
	11. 地域・在宅看護における多職種連携						
	12. 地域の暮らしにおけるリスクの理解						
	13. 地域・在宅看護における看護師の役割と機能① 事例演習						
	14. 地域・在宅看護における看護師の役割と機能② 事例演習						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験80% 提出資料10% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤／医学書院						
参考書	国民衛生の動向／厚生統計協会 専任教員系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生／医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践／医学書院						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	地域と暮らし	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	15	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	「暮らす」ということはどういうことか考えるとともに, 暮らしが健康に与える影響を理解する。また, 主体的な学習活動(フィールドワーク)の参加により地域における自助・互助・共助・公助による組織や暮らしを理解する基礎的能力を養う。						
到達目標	1. 「暮らす」ということはどういうことか考えることができる。 2. 生活環境が健康に与える影響について理解する。 3. 地域に暮らす人々を支える環境について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 「暮らす」とはどういうことか考える						
	2. 生活環境が健康に与える影響						
	3. 人々の生活圏・生活環境を知ろう① フィールドワーク・インタビュー調査						
	4. 人々の生活圏・生活環境を知ろう② フィールドワーク・インタビュー調査						
	5. 人々の生活圏・生活環境を知ろう③ フィールドワーク・インタビュー調査結果まとめ						
	6. 「暮らすとは」発表・学びの共有						
	7. 暮らしの多様性とその支援						
	8. 終講試験・まとめ						
	評価方法	筆記試験50% 演習・提出物40% 授業への参加態度10%					
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤／医学書院 系統看護学講座 基礎分野 文化人類学／医学書院						
参考書	系統看護学講座 基礎分野 社会学／医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生／医学書院						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	家族看護学	担当講師	末永真由美	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	15	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	家族の定義を理解したうえで家族を理解するための基礎理論を学ぶ。また, 療養者だけでなく療養者を介護する多様な家族成員に向けた看護の役割と援助について, 事例を活用し理解する基礎的な能力を養う。						
到達目標	1. 患者・在宅療養者の健康問題が家族に及ぼす影響を理解する。 2. 家族看護モデルの実際を概観し家族アセスメントを理解する。 3. 家族に対する看護ケアを具体的に考えることができる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 家族看護とは 家族看護の発展と変遷 家族看護の特徴 ライフサイクルと家族						
	2. 家族看護の対象理解						
	3. 家族看護を支える理論と介入方法①						
	4. 家族看護を支える理論と介入方法②						
	5. 家族看護展開の方法						
	6. 家族看護の実際 事例演習①						
	7. 家族看護の実際 事例演習②						
	8. 終講試験・まとめ						
	評価方法	筆記試験80% 提出資料10% 授業への参加態度10%					
教科書	系統看護学講座 別巻 家族看護学／医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤／医学書院						
参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践／医学書院						
備考	実務経験;認定看護管理者として業務に携わり, 地域看護に従事し, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	暮らしを支える 看護Ⅰ	担当講師	専任教員 堀畑香織	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	15	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	地域や暮らしを理解し, 多様な場で健康のレベルに応じた保持増進を支援する看護師と多職種連携, 協働の必要性を学ぶ。また, 事例演習を通して健康と暮らしを支えるために基本的なマナーを学びコミュニケーションを通して生活する療養者と家族への支援の意義と方法を学ぶ。						
到達目標	1. 地域・在宅看護における健康レベルに応じた保持増進について理解する。 2. 地域・在宅看護に必要な訪問準備や基本的なマナーを理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 在宅看護介入時期別の特徴						
	2. 在宅看護介入時期別の看護						
	3. 多様な地域・在宅看護に必要な訪問準備・基本的なマナー ①DVD鑑賞						
	4. 多様な地域・在宅看護に必要な訪問準備・基本的なマナー ②演習						
	5. 地域・在宅看護における他職種連携・協働						
	6. 在宅看護過程のポイント ICFの概念を活用した基本的情報の把握						
	7. 在宅看護過程展開の実際 事例検討						
	8. 終講試験・まとめ						
	評価方法	筆記試験80% 提出資料10% 授業への参加態度10%					
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践／医学書院						
参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤／医学書院 場面で学ぶ在宅看護論／メディカ出版						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	暮らしを支える 看護Ⅱ	担当講師	白石ミドリ	単位数	1	対象学生	3年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	暮らしの場で行われる医療機器管理, 観察, 異常の早期発見の基本的事項について学ぶ。また, 療養者および家族, 多職種とともに終末期, 緊急時や災害時の管理やケアの実際について事例を通して学ぶ。						
到達目標	1. 生活や経済性を考慮した日常生活援助や医療ニーズに応じた看護技術を理解する。 2. 暮らしの場で多職種と協働する看護の役割を理解する。 3. 暮らしにおける終末期や看取りの看護を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. コミュニケーションを援助する						
	2. 住環境を調整する 安全・安心な環境調整 感染予防						
	3. 豊かな食生活を支える						
	4. 排泄を支える						
	5. 清潔を保持する						
	6. 身体運動機能の低下を予防する						
	7. 薬物療法を支援する						
	8. 在宅における医療管理;経管栄養・中心静脈栄養管理						
	9. 在宅における医療管理;間欠導尿・留置カテーテルの管理						
	10. 在宅における医療管理;在宅酸素療法, 気管カニューレ・人工呼吸器の管理						
	11. 在宅における医療管理;褥瘡予防と管理						
	12. 在宅における終末期の看護① 疼痛管理 事例演習						
	13. 在宅における終末期の看護② グリーフケア 事例検討						
	14. 在宅における終末期の看護 エンジェルケア 事例演習						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験80% 提出資料10% 授業への参加態度10% 総合的に評価						
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践／医学書院 新定版 写真でわかる訪問看護アドバンス／インターメディカ						
参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤／医学書院 場面で学ぶ在宅看護論／メディカ出版						
備考	実務経験;看護師、認定看護管理者として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	暮らしを支える 看護Ⅲ	担当講師	末永真由美	単位数	1	対象学生	3年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	地域で療養生活を送る人と家族の具体的な事例を用いて, 小集団学習を行いアセスメントし社会資源の活用を含めた継続看護の意義や方法について演習を通して高める。						
到達目標	1. 事例を通して地域で療養生活を送る対象と家族の場や状態に応じた看護展開を理解する。 2. 暮らしを支える継続看護の意義と課題について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 病棟看護と在宅看護のちがい						
	2. 脳卒中をおこした患者の看護 在宅導入事例展開① 1) 食の援助 2) 移動の援助 3) 清潔の援助						
	3. 脳卒中をおこした患者の導入事例展開②						
	4. 脳卒中をおこした患者の導入事例展開③						
	5. 認知症の療養者に対する看護の事例展開①						
	6. 認知症の療養者に対する看護の事例展開②						
	7. 認知症の療養者に対する看護の事例展開③						
	8. ALSで人工呼吸療法を実施する療養者と家族の看護 事例展開①						
	9. ALSで人工呼吸療法を実施する療養者と家族の看護 事例展開②						
	10. ALSで人工呼吸療法を実施する療養者と家族の看護 事例展開③						
	11. 脳卒中・認知症・ALSの療養者と家族看護の実際 演習①						
	12. 脳卒中・認知症・ALSの療養者の家族看護の実際 演習②						
	13. 脳卒中・認知症・ALSの療養者の家族看護の実際 演習③						
	14. 地域・在宅看護からの学びと課題 グループワーク						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験40% 演習・提出物50% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践／医学書院 新定版 写真でわかる訪問看護アドバンス／インターメディカ						
参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤／医学書院 場面で学ぶ在宅看護論／メディカ出版						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	地域・在宅看護論 実習Ⅰ	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	45	時期	後期
				授業方法		臨地実習	
科目概要	地域で暮らす人々と、多様な場で療養する対象者や家族が、安心してその人らしい生活を継続していくために実践されている地域包括ケアシステムを通して、看護の役割、多職種との連携の在り方を理解できる。						
到達目標	1. 地域で暮らす人々と家族の生活環境、生活状況を理解する。 2. 療養者の生活を支援するための社会資源活用の実際を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間						
	施設実習;4日間（8時間/日）						
	学内実習;実習前 1日間(8. 0時間/日), 実習後 1日間(5.0時間/日)						
	2. 実習施設						
	リハプラザふれんどみなみ,						
	就労継続支援B型事業所 ぶどうの木&薩摩わっふる,						
	ナーシングホーム田上苑(デイケア・介護),						
	グループホームはるかぜ,グループホームはるかぜ西陵						
	ナーシングホーム田上苑(デイケア・介護),						
	グループホームはるかぜ,グループホームはるかぜ西陵						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
評価方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面談を総合して行う。						
授業に関する留意点	1. 学内実習では、臨地実習に向けて不明点のないように学ぶ。 2. 記録物などは、提出期限を遵守する。 3. 実習に関連する文献の収集を行い自己学習する。 4. 自己のコミュニケーションの傾向を知り、対象や施設スタッフなどとコミュニケーションを十分に図り、相互関係を深める。 5. 個人情報保護を厳守する。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目	地域・在宅看護論 実習Ⅱ	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	3年次
				時間数	45	時期	通年
				授業方法		臨地実習	
科目概要	地域で暮らす人々と、多様な場で療養する対象者や家族が、安心してその人らしい生活を継続していくために実践されている地域包括ケアシステムを通して、看護の役割、多職種との連携の在り方を理解できる。						
到達目標	1. 療養者、家族の健康状態、生活状況に応じた日常生活援助技術、基本的な医療的ケアを実践する。 2. 保健・医療・福祉職種の連携協働を通して、切れ目のない看護を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間						
	訪問看護ステーション;4日間(8時間/日)						
	学内実習;実習前 1日間(8.0時間/日), 実習後 1日間(5.0時間/日)						
	2. 実習施設						
	日置市医師会訪問看護ステーション,						
	医療法人三州会訪問看護ステーション真砂本町,						
	生協訪問看護ステーションたにやま,						
	社会医療法人緑泉会マロニエ訪問看護ステーション「護国」,						
	訪問看護ステーションてあて,						
	株式会社 ACG 訪問看護ステーションあおぞら,						
	愛仁会訪問看護ステーション,						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
評価方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面談を総合して行う。						
授業に関する留意点	1. 学内実習では、臨地実習に向けて不明点のないように学ぶ。 2. 記録物などは、提出期限を遵守する。 3. 実習に関連する文献の収集を行い自己学習する。 4. 自己のコミュニケーションの傾向を知り、対象や施設スタッフなどとコミュニケーションを十分に図り、相互関係を深める。 5. 個人情報保護を厳守する。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目	成人看護学概論	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	ライフサイクルからみた成人期の特徴を踏まえ, 成人看護学の概況及び目的と役割, 健康の破綻とその課題, 保健の動向と活動, 成人の健康生活に応じた看護について理解する。						
到達目標	1. 成人期にある対象を理解し, 成人看護の目的や役割を学ぶ。 2. 成人期の健康に影響を及ぼす因子について理解し, 健康の保持・増進や疾病の予防のための看護を理解する。 3. 成人期の保健の動向と保健対策を総括的に理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 「大人になること」「大人であること」成人の生活スタイルの多様性について						
	2. 成人保健の動向について 健康を守りはぐくむ保健・医療・福祉システムについて						
	3. 大人の健康行動のとらえ方, 行動変容を促進する看護アプローチ						
	4. 意思決定プロセスにおける看護師の役割, 家族支援						
	5. 成人の健康レベルに対応した看護 ヘルスプロモーションと看護						
	6. 成人に特有な健康問題について ～生活習慣病, 職業・生活ストレスに関する健康障害～						
	7. 学習者である患者への看護技術						
	8. 終講試験						
	評価方法	筆記試験80% 提出物10% 授業への参加態度10%					
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論／医学書院						
参考書	国民衛生の動向／厚生統計協会 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図 4版／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論／医学書院 他随時, 資料を紹介する。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	成人看護援助論Ⅰ (循環器系看護) (呼吸器系看護) (造血器・アレルギー看護)		担当講師	非常勤講師 専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
					時間数	30	時期	通年
					授業方法		講義, 演習等	
科目概要	循環器、呼吸器、造血器・アレルギーの障害により疾患を抱えることは、心身に与える影響が大きい。生命の危機的状態にある急性期から回復期にある対象・家族の特徴やニーズを知り、その状況に応じた看護の特徴を理解する。							
到達目標	1. 循環器系、呼吸器系、造血器・アレルギー疾患のある対象の特徴から、各系統別の代表的な治療・処置・主要症状とその看護について理解する。 2. 各疾患のある患者の看護(指導教育)について理解する。							
授業計画	単元	学 習 内 容						
	循環器系看護 (10時間)	1. 心・循環器系疾患を持つ患者の特徴と看護の役割、症状に対する看護						
		2. 検査・処置を受ける患者の看護;心電図, 動脈血ガス分析, 画像診断						
		3. 治療を受ける患者の看護;心臓カテーテル法, ペースメーカーを装着した看護						
		4. 循環器疾患をもつ患者の看護①(心不全患者の看護)						
		5. 循環器疾患をもつ患者の看護②(虚血性心疾患患者, 不整脈患者の看護)						
	呼吸器系看護 (10時間)	6. 呼吸器系疾患を持つ患者の特徴と看護の役割、症状に対する看護 検査を受ける患者の看護(内視鏡検査, 肺組織生検など)						
		7. 治療処置を受ける患者の看護(胸腔ドレナージを受ける患者の看護)						
		8. 呼吸器疾患をもつ患者の看護①(肺炎患者の看護)						
		9. 呼吸器疾患をもつ患者の看護②(慢性閉塞性肺疾患患者の看護)						
		10. 呼吸器疾患をもつ患者の看護③(気管支喘息患者の看護)						
	造血器・アレルギー看護 (10時間)	11. 造血器・アレルギー疾患を持つ患者の特徴と看護の役割、症状に対する看護						
		12. 検査・処置を受ける患者の看護(化学療法, 骨髄穿刺・腰椎穿刺時の看護など)						
		13. 造血器系疾患をもつ患者の看護(成人T細胞白血病(ATL)・多発性骨髄腫)						
		14. 造血幹細胞移植患者の看護						
		15. アレルギー疾患患者の看護						
		16. 終講試験						
評価方法	筆記試験90%(循環器系30%・呼吸器系30%・造血器・アレルギー看護30%)、参加態度10% 成人看護援助論Ⅰの評価は、循環器系、呼吸器系、造血器・アレルギー看護の合計とする。							
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器／医学書院							
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論／医学書院 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図／医学書院							
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。							

授業科目	成人看護援助論Ⅱ (消化器系看護) (運動器系看護) (脳神経系看護)	担当講師	非常勤講師 専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	消化・吸収機能及び栄養代謝機能、運動機能、脳・神経機能の障害により疾患を抱えることは、生命や生活に大きな影響を心身に及ぼす。生命の危機的状態にある急性期から回復期にある対象・家族の特徴やニーズを知り、その状況に応じた看護の特徴を理解する。						
到達目標	1. 消化器、運動器、脳神経系疾患のある対象の特徴から、各系統別の代表的な治療・処置・主要症状とその看護について理解する。 2. 各疾患のある患者の看護(指導教育)について理解する。						
授業計画	単元	学 習 内 容					
	消化器系看護 (10時間)	1. 消化器系疾患を持つ患者の特徴と看護の役割症状に対する看護 (嚥下困難, 嘔気嘔吐, 吐血・下血, 下痢・便秘, 黄疸, 肝性脳症など)					
		2. 検査・処置を受ける患者の看護 (上部消化管・大腸内視鏡検査, ERCP, 造影など)					
		3. 治療・処置を受ける患者の看護① 手術療法(食道がん・胃がん・大腸がん患者の看護) 治療・処置を受ける患者の看護② ストーマ造設をする患者の看護					
		4. 消化器疾患をもつ患者の看護① (胃・十二指腸潰瘍患者の看護)					
		5. 消化器疾患をもつ患者の看護② (潰瘍性大腸炎, クローン病患者の看護)					
	運動器系看護 (10時間)	6. 運動器系疾患を持つ患者の特徴と看護の役割症状に対する看護 (神経麻痺・循環障害・拘縮など)					
		7. 検査を受ける患者の看護(脊椎造影・関節造影など) 保存療法を受ける患者の看護(ギプス・副子・牽引・コルセットの装着・腰痛体操含む)					
		8. 運動器疾患をもつ患者の看護①(大腿骨頸部骨折患者の看護)					
		9. 運動器疾患をもつ患者の看護② (脊椎損傷患者の看護, 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護)					
		10. 運動器疾患をもつ患者の看護③(関節リウマチ患者の看護)					
	脳神経系看護 (10時間)	11. 脳神経系疾患を持つ患者の特徴と看護の役割症状に対する看護 (意識障害, 失語, 失行と失認, 認知機能障害, 運動麻痺, 痙攣, 筋萎縮, 頭蓋内圧亢進, 髄膜刺激症状など)					
		12. 検査・処置を受ける患者の看護(脳波, 髄液, 脳血管造影, CT, MRIなど)					
		13. 脳神経系疾患をもつ患者の看護①(脳卒中患者の看護, 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア)					
		14. 脳神経系疾患をもつ患者の看護② (クモ膜下出血患者の看護)					
		15. 脳神経系疾患をもつ患者の看護③ (認知症「ユマニチュードの視点で考える」の看護)					
		16. 終講試験					
評価方法	筆記試験90%(消化器系30%・運動器系30%・脳神経系看護30%)、参加態度10% 成人看護援助論Ⅱの評価は、消化器系、運動器系、脳神経系看護の合計とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経／医学書院						
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論／医学書院 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図／医学書院						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	成人看護援助論Ⅲ (腎・泌尿器系看護) (内分泌・代謝系看護) (感覚器系看護)	担当講師	非常勤講師 専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	排泄機能、糖・脂質機能、感覚機能の障害により疾患を抱えることは、生命や生活に大きな影響を心身に及ぼす。生命の危機的状態にある急性期から回復期にある対象・家族の特徴やニーズを知り、その状況に応じた看護の特徴を理解する。						
到達目標	1. 腎・泌尿器、内分泌・代謝、感覚器系疾患のある対象の特徴から、各系統別の代表的な治療・処置・主要症状とその看護について理解する。 2. 各疾患のある患者の看護(指導教育)について理解する。						
授業計画	単元	学 習 内 容					
	腎・泌尿器系看護 (10時間)	1. 腎・泌尿器系疾患を持つ患者の特徴と看護の役割症状に対する看護 (浮腫, 高血圧, 下部尿路症状, 尿の性状異常など)					
		2. 検査を受ける患者の看護(膀胱鏡, 造影, 生検など) 腎・泌尿器系疾患をもつ患者の看護①(IgA腎症, 糖尿病性腎症, 腎盂腎炎)					
		3. 腎・泌尿器系疾患をもつ患者の治療と看護(急性腎不全, 慢性腎不全)					
		4. 治療を受ける患者の看護(血液透析, 腹膜透析, 腎移植)					
		5. 腎・泌尿器系の疾患をもつ患者の看護②(糖尿病性腎症から透析導入の患者の看護)					
	内分泌・代謝系看護 (10時間)	6. 内分泌・代謝系疾患を持つ患者の特徴と看護の役割 症状に対する看護(体重変化, 容貌の変化, 精神症状, 意識障害, 痙攣, 麻痺・しびれ、 振戦, 循環器・消化器症状, 皮膚の変化, 無月経など)					
		7. 検査・処置を受ける患者の看護 (生化学, 糖負荷試験・血糖自己測定, ホルモン負荷試験など) 治療を受ける患者への看護(運動療法・食事療法・薬物療法)					
		8. 内分泌・代謝系疾患をもつ患者の看護① 糖尿病患者の看護					
		9. 内分泌・代謝系疾患をもつ患者の看護②(下垂体疾患, 甲状腺疾患, 副甲状腺)					
		10. 内分泌・代謝系疾患をもつ患者の看護③ (脂質異常, 肥満患者の看護)					
	感覚器系看護 (10時間)	11. 感覚器系疾患を持つ患者の特徴と看護の役割 症状に対する看護(視覚障害, 耳痛・耳漏, 難聴, 鼻閉・鼻漏など)					
		12. 検査・処置を受ける患者の看護(眼底検査, 聴力検査, 味覚検査など) 治療を受ける患者への看護(眼底光凝固療法, 網膜はく離治療)					
		13. 感覚器系疾患をもつ患者の看護①(中途視覚障害者への看護)					
		14. 感覚器系疾患をもつ患者の看護②(突発性難聴患者への看護)					
		15. 感覚器系疾患をもつ患者の看護③(メニエール病患者への看護)					
		16. 終講試験					
評価方法	筆記試験90%(腎・泌尿器系30%・内分泌・代謝系30%・感覚器系看護30%)、参加態度10% 成人看護援助論Ⅲの評価は、腎・泌尿器系、内分泌・代謝系、感覚器系看護の合計とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]	腎・泌尿器／医学書院					
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]	内分泌・代謝／医学書院					
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7]	脳・神経／医学書院					
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12]	皮膚／医学書院					
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13]	眼／医学書院					
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14]	耳鼻咽喉／医学書院					
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4]	臨床看護総論／医学書院					
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	／医学書院					
	病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図	／医学書院					
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに講義を行う。						

専門分野(成人看護学)

授業科目	成人健康状態別 看護Ⅰ (急性・回復期)	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	ライフサイクルにおける成人期の特徴を生活や健康に関する最新のデータに着目しながら健康障害をもつ成人期の対象と家族看護について基本的な理論から考える。また、健康状態別(急性期・回復期)の大腸がんの事例を通して状態や治療における回復支援に向けたPBLやOSCEによる演習から看護実践能力を養う。						
到達目標	1. 成人を取り巻く環境(地域)と生活から見た健康状況の特徴を知る。 2. 健康状態や治療におけるアセスメントから回復支援に向けた援助を理解する。 3. 急性期・回復期に考えられる状態に応じた看護実践能力を高める。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. ライフステージと健康課題 発達課題と健康課題 働く人の健康課題と管理(産業保健)						
	2. 健康支援の基礎理論 健康支援の方法 治療法の基礎知識 集団指導と個別指導						
	3. 急性期患者の事例を通して看護を考える 大腸がんの病期(ステージ)別治療と看護						
	4. 回復期患者の事例を通して看護を考える 大腸がんの病期(ステージ)別治療と看護						
	5. 急性期・回復期患者の事例(ストーリー造設)を通した看護を明らかにする						
	6. 急性期にある人の看護 , 危機介入(アギュララ・フィンク)						
	7. 健康の回復に向けた援助の実践 エンパワメント セルフケアとセルフマネジメント						
	8. 術前の患者の看護						
	9. 術中の患者の看護						
	10. 術後の患者の看護						
	11. 周手術期における薬剤の基礎知識 全身麻酔・局所麻酔, 鎮痛薬, 抗菌薬・化学療法的作用と種類 副作用						
	12. 再発(転移のがん治療を知る。) 放射線治療, 化学療法, 免疫療法, 遺伝子治療(がんゲノム医療)						
	13. 学力試験 リフレクション						
	14. 術後の看護の看護の実際 OSCE・リフレクション						
	15. 術後の患者の看護の実際 OSCE・リフレクション						
評価方法	OSCE(学力試験60% 技術40%)						
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論／医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論／医学書院						
参考書	ナーシングサプリー イメージできる 臨床薬理学／メディカ出版						
備考	技術経験録を活用し対象に必要な技術の演習を自主的に進めてください。 実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	成人健康状態別 看護Ⅱ (慢性・終末期)	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	ライフサイクルにおける成人期の特徴を生活や健康に関する最新のデータに着目しながら健康障害をもつ成人期の対象と家族看護について基本的な理論から考える。また, 健康状態別(慢性期・終末期)の大腸がんの事例を通して状態や治療における支援に向けた看護実践能力を養う。						
到達目標	1. 成人を取り巻く環境(地域)と生活から見た健康状況の特徴を知る。 2. 健康状態や治療におけるアセスメントから支援に向けた援助を理解する。 3. 慢性期・終末期に考えられる状態や治療に応じた看護実践能力を高める。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 慢性病と慢性病を持つ人の特徴を理解する						
	2. セルフケア及びセルフマネジメントへの支援						
	3. 生活の再構築への支援、主体的取り組みの促進						
	4. 教育的アプローチ						
	5. セルフケアに適した環境の調整、家族の協力						
	6. 療養継続のための社会資源の活用、社会との交流						
	7. さまざまな健康レベルにある人の継続的移行支援						
	8. 退院後の支援について(がん再発 緩和ケア)						
	9. 人生の最後のときを支える援助 自己決定を重視した医療 ターミナルケア ホスピタルケア 緩和ケア						
	10. がん・痛みに使用する薬剤の基礎知識(作用・副作用)						
	11. 緩和ケアをめぐる倫理的課題						
	12. 住み慣れた地域での暮らしの支援 臨死期のケア						
	13. 終末期における家族のケア グリーフケア						
	14. 終末期・臨死期における看護の実際(OSCE)						
	15. 終末期・終末期における看護の実際(OSCE)・リフレクション						
評価方法	*評価は, OSCE(学力試験40% 技術50% 態度・リフレクション10%)						
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器/医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論/医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論/医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア/医学書院						
参考書	ナーシングサブリ イメージできる 臨床薬理学/メディカ出版						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	老年看護学概論	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	老年看護学の対象となる高齢者を社会的存在の生活者として理解するために, 老年期の特徴や高齢者を取り巻く社会環境について多面的・総合的に理解し, 専門職としての基本的な考え方や姿勢について学ぶ。						
到達目標	1. 老年期の発達課題や加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴を理解し, 高齢者を社会的存在の生活者としてとらえ, 高齢者の生活機能に視点をあてた援助について考える。 2. 個人の人生や影響を受けた社会変動, 高齢者を取り巻く高齢社会と社会保障の動きを理解し, 高齢者と家族, 社会生活に及ぼす影響や高齢社会における課題について考える。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 高齢者とはどんな存在か体験してみましょう。(演習)						
	2. 高齢者のイメージをグループで話し合いまとめてみましょう。(体験発表)						
	3. 「老いる」ということ, 老いを生きるということ 高齢者の定義, 発達と成熟, 加齢に伴う身体的側面・心理的側面変化, 社会的側面						
	4. 高齢者のヘルスアセスメント①皮膚とその付属物②視聴覚とそのほかの感覚③運動系ほか						
	5. 高齢社会の現状; 高齢者の暮らし, 家族, 健康状態, 社会とのかかわり, 就業へのニーズ, 高齢社会と社会保障①保健医療福祉の動向						
	6. 高齢社会と社会保障②権利擁護, 高齢者虐待・防止, 老年看護のなりたちと看護の役割						
	7. 生活・療養の場における看護; ヘルスプロモーション, 介護保険施設, 家族看護 老年看護における理論, 概念の活用						
	8. 終講試験						
評価方法	筆記試験80% 提出物10% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論／医学書院						
参考書							
備考	実務経験; 看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	老年看護援助論Ⅰ	担当講師	専任教員 非常勤講師	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	高齢者の身体的変化に伴う日常生活行動を生活機能の観点からアセスメントし, 生活上の課題に対する看護を展開するために必要な知識と専門的な日常生活援助を実践するための技術を修得する。						
到達目標	1. 老年看護の原理と倫理を基軸においた活動の展開方法について理解する。 2. 高齢者の身体的変化とその特徴を生活機能の観点からアセスメントし, 看護を展開する方法を理解する。 3. 対象の個別性を踏まえた生活リズムの回復と自立生活の拡大に焦点をあてた援助技術について理解する。 4. 高齢者の生活上の課題に専門的に援助できる知識と技術を修得する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 老年看護を行なう目的, 老年看護の基本						
	2. 加齢による摂食・嚥下機能の変化						
	3. 食生活と摂食障害のアセスメント, ケアの技法						
	4. 食生活を支える援助技術① 援助計画立案						
	5. 食生活を支える援助技術(演習)②						
	6. 食生活を支える援助技術(演習)③						
	7. 経管栄養摂取, 口腔ケアの実際						
	8. 運動・休息・睡眠の変調のアセスメントとケアの技法						
	9. 日常生活動作能力のアセスメントとケア技法, ADL指標の紹介 転倒予防のアセスメントとケア技法, 廃用症候群のアセスメントと看護						
	10. 排泄パターンの変調のアセスメントとケア技法(尿失禁・便失禁・ストーマケア)						
	11. 褥瘡ケア(創傷治癒過程, 褥瘡予防)						
	12. 褥瘡ケア(褥瘡周囲のスキンケア)						
	13. スキンケア 看護の技法(テープの貼り方・はがし方)						
	14. 加齢による身体変化、講義のまとめ						
	15. 終講試験						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座	専門分野	老年看護学／医学書院				
	系統看護学講座	専門分野	老年看護 病態・疾患論／医学書院				
	系統看護学講座	専門分野	基礎看護学[4] 臨床看護総論／医学書院				
参考書							
備考	実務経験;皮膚・排泄ケア認定看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。 実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	老年看護援助論Ⅱ	担当講師	非常勤講師	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	高齢者の身体的・心理的な健康上の課題, 特徴的な健康障害についての知識を得て, 看護実践に活用するための専門知識と健康障害や生活機能障害に対する看護の方法を理解する。						
到達目標	1. 高齢者の健康障害の特徴を理解し, 健康障害の状態や生活機能障害に応じた看護を理解する。 2. 高齢者に多い特徴的な疾患と症状, 治療・処置を受ける高齢者の看護を理解する。 3. さまざまな健康障害を抱える高齢者を包括的にアセスメントし, QOLの向上を踏まえた看護や生活機能障害に応じた看護の基本的知識を学ぶ。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 高齢者の生理的特長(老年看護学概論の復習;老化)						
	2. 老年症候群 ① 急性疾患に付随する症候						
	3. 老年症候群 ② 慢性疾患に付随する症候						
	4. 老年症候群 ③ ADL低下に合併する症候						
	5. 疾患をもつ高齢者への看護 ① 認知症						
	6. 疾患をもつ高齢者への看護 ② 循環器系の疾患;虚血性心疾患						
	7. 疾患をもつ高齢者への看護 ② 循環器系の疾患;心不全						
	8. 疾患をもつ高齢者への看護 ③ 呼吸器系の疾患;肺炎						
	9. 疾患をもつ高齢者への看護 ④ 消化器系の疾患;感染性胃腸炎						
	10. 疾患をもつ高齢者への看護 ⑤ 内分泌・代謝系の疾患;糖尿病						
	11. 疾患をもつ高齢者への看護 ⑥ 膠原病;関節リウマチ						
	12. 疾患をもつ高齢者への看護 ⑦ 腎・泌尿器系の疾患;薬剤性腎障害						
	13. 疾患をもつ高齢者への看護 ⑧ 皮膚の疾患;褥瘡						
	14. 疾患をもつ高齢者への看護 ⑨ 感覚器の疾患						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学／医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論／医学書院						
参考書							
備考	実務経験;看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	老年健康状態別看護	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	ライフサイクルにおける老年期の特徴を生活や健康に関する最新のデータに着目しながら健康障害をもつ老年期の対象と家族看護について基本的な理論から考える。また, 健康状態別(急性期・回復期)の大腿骨頸部骨折の事例を通して状態や治療における回復支援に向けたPBLやOSCEによる演習から看護実践能力を養う。						
到達目標	1. 老年を取り巻く環境(地域)と生活から見た健康状況の特徴を知る。 2. 健康状態や治療におけるアセスメントから回復支援に向けた援助を理解する。 3. 急性期・回復期に考えられる状態に応じた看護実践能力を高める。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. ライフステージと健康課題 発達課題と健康課題 高齢者の健康課題と管理						
	2. 健康支援の基礎理論						
	3. 健康支援の方法 治療法の基礎知識 家族看護						
	4. 急性期患者の事例を通して看護を考える 大腿骨頸部骨折の病期別治療と看護						
	5. 回復期患者の事例を通して看護を考える 大腿骨頸部骨折の病期別治療と看護						
	6. 急性期・回復期患者の事例(人工骨頭置換術)を通した看護を明らかにする①						
	7. 急性期・回復期患者の事例(人工骨頭置換術)を通した看護を明らかにする②						
	8. 健康の回復に向けた援助の実践 セルフケアとセルフマネジメント, ストレングスモデル						
	9. 周手術期の看護の概要と看護師の役割 (術前・中・後管理)						
	10. 術前の患者の看護						
	11. 術中の患者の看護						
	12. 術後の患者の看護						
	13. 手術療法, 間欠的空気圧迫法, 脱臼予防肢位						
	14. 周手術期における薬剤の基礎知識 全身麻酔・硬膜下外麻酔, 局所麻酔, 鎮痛薬, 抗菌薬の作用と種類 副作用						
	15. 術後の患者の看護の実際(合併症予防) OSCE・リフレクション						
評価方法	OSCE(学力試験40% 技術50% 態度・リフレクション10%)						
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学／医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論／医学書院						
参考書	ナーシングサブリ イメージできる 臨床薬理学／メディカ出版						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	成人・老年看護学 実習Ⅰ	担当講師	専任教員	単位数	2	対象学生	2年次
				時間数	90	時期	後期
				授業方法		臨地実習	
科目概要	成人・老年期にある人への根拠に基づいた日常生活の援助をととして、生活上のニーズの把握と必要な看護の基礎を学ぶ。						
到達目標	1. 成人期・老年期の身体的・心理的・社会的特徴を捉えることができる。 2. 加齢や疾病による機能低下や障害の特徴を理解し看護上の問題を見出すことができる。 3. 対象がセルフケアしながらその人らしく生活するための看護目標を明らかにし、安全・安楽・自立・経済性を考慮した看護実践ができる。 4. 対象の生活史や価値観を尊重した看護者としての基本的態度を養うことができる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間 病棟実習 10日間（9時間/日）						
	2. 実習施設 公益社団法人鹿児島共済会 南風病院						
	鹿児島厚生連病院						
	社会医療法人緑泉会 米盛病院						
	鹿児島市医師会病院						
	総合病院 鹿児島生協病院						
	公益財団法人慈愛会 今村総合病院						
	霧島市立医師会医療センター						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
	評価方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面談を総合して行う。					
授業に関する留意点	1. 目標を明確にして実習に臨む。 2. 実習経過により変化する対象を受け持つ。 3. 記録物などの提出期限を遵守する。 4. 受け持ち対象の発達段階や健康障害に関連する文献の収集を行い、自己学習を進める。 5. 看護過程の各段階で、指導者の指導を受ける。 6. 看護計画はカンファレンスで発表・検討・助言を受ける。 7. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。 8. 看護技術の実施は指導者のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。 9. カルテを閲覧する時は、必ず指導者の許可をもらう。						
備考	実務経験；看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目	成人・老年看護学 実習Ⅱ (急性期・回復期)	担当講師	専任教員	単位数	2	対象学生	3年次
				時間数	90	時期	通年
				授業方法		臨地実習	
科目概要	成人・老年期にある急性期・回復期の経過をたどる対象とその家族の特徴を理解し、生命維持と健康回復を支えるための看護ができる能力を養う。						
到達目標	1. 成人期・老年期にある急性期・回復期の経過をたどる対象とその家族を理解できる。 2. 成人期・老年期にある急性期・回復期の経過をたどる対象の健康状態のアセスメントができる。 3. 成人期・老年期にある対象の生命維持と健康回復を促すための援助を実践できる。 4. 看護師の役割と責任を理解し、行動することができる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間 病棟実習 10日間 (9時間/日)						
	2. 実習施設 公益社団法人鹿児島共済会 南風病院						
	社会医療法人緑泉会 米盛病院						
	鹿児島市医師会病院						
	鹿児島厚生連病院						
	総合病院 鹿児島生協病院						
	公益財団法人慈愛会 今村総合病院						
	霧島市立医師会医療センター						
	社会医療法人青雲会 青雲会病院						
	医療法人慈風会 厚地脳神経外科病院						
	独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
	評価方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面談を総合して行う。					
授業に関する留意点	1. 目標を明確にして実習に臨む。 2. 実習経過により変化する対象を受け持つ。 3. 記録物などの提出期限を遵守する。 4. 受け持ち対象の発達段階や健康障害に関連する文献の収集を行い、自己学習を進める。 5. 看護過程の各段階で、指導者の指導を受ける。 6. 看護計画はカンファレンスで発表・検討・助言を受ける。 7. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。 8. 看護技術の実施は指導者のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。 9. カルテを閲覧する時は、必ず指導者の許可をもらう。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目	成人・老年看護学 実習Ⅲ (慢性期)	担当講師	専任教員	単位数	2	対象学生	3年次
				時間数	90	時期	通年
				授業方法		臨地実習	
科目概要	成人・老年期にある慢性期の経過をたどる対象およびその家族の特徴を理解し、セルフケアに向けた看護ができる能力を養う。						
到達目標	1. 成人期・老年期にある慢性期の経過をたどる対象とその家族を理解できる。 2. 成人期・老年期にある慢性期の経過をたどる対象の健康状態のアセスメントができる。 3. 成人期・老年期にある対象のセルフケアに向けた援助を実践できる。 4. 看護師の役割と責任を理解し、行動することができる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間 病棟実習 10日間(9時間/日)						
	2. 実習施設 公益社団法人鹿児島共済会 南風病院						
	社会医療法人緑泉会 米盛病院						
	鹿児島市医師会病院						
	鹿児島厚生連病院						
	総合病院 鹿児島生協病院						
	公益財団法人慈愛会 今村総合病院						
	霧島市立医師会医療センター						
	社会医療法人青雲会 青雲会病院						
	医療法人慈風会 厚地脳神経外科病院						
	独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
	評価方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面談を総合して行う。					
授業に関する留意点	1. 目標を明確にして実習に臨む。 2. 実習経過により変化する対象を受け持つ。 3. 記録物などの提出期限を遵守する。 4. 受け持ち対象の発達段階や健康障害に関連する文献の収集を行い、自己学習を進める。 5. 看護過程の各段階で、指導者の指導を受ける。 6. 看護計画はカンファレンスで発表・検討・助言を受ける。 7. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。 8. 看護技術の実施は指導者のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。 9. カルテを閲覧する時は、必ず指導者の許可をもらう。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目	成人・老年看護学 実習Ⅳ (終末期)	担当講師	専任教員	単位数	2	対象学生	3年次
				時間数	90	時期	通年
				授業方法		臨地実習	
科目概要	成人・老年期にあるエンドオブライフケアが必要な人とその家族を理解し、その人らしい生きかたを支えるために必要な看護ができる能力を養う。						
到達目標	1. 成人期・老年期にある終末期(ライフサイクルの最終段階)の経過をたどる対象とその家族を理解できる。 2. 成人期・老年期にある終末期(ライフサイクルの最終段階)の経過をたどる対象の健康状態のアセスメントができる。 3. 成人期・老年期にある対象の残された生を有意義に過ごせるように、QOLを考えた援助を実践できる。 4. 看護師の役割と責任を理解し、行動することができる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間 病棟実習 10日間(9時間/日)						
	2. 実習施設 公益社団法人鹿児島共済会 南風病院						
	社会医療法人緑泉会 米盛病院						
	鹿児島市医師会病院						
	鹿児島厚生連病院						
	総合病院 鹿児島生協病院						
	公益財団法人慈愛会 今村総合病院						
	霧島市立医師会医療センター						
	社会医療法人青雲会 青雲会病院						
	医療法人慈風会 厚地脳神経外科病院						
	独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
評価方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面談を総合して行う。						
授業に関する留意点	1. 目標を明確にして実習に臨む。 2. 実習経過により変化する対象を受け持つ。 3. 記録物などの提出期限を遵守する。 4. 受け持ち対象の発達段階や健康障害に関連する文献の収集を行い、自己学習を進める。 5. 看護過程の各段階で、指導者の指導を受ける。 6. 看護計画はカンファレンスで発表・検討・助言を受ける。 7. 実施する看護技術は、学内で十分に練習して臨む。 8. 看護技術の実施は指導者のもとで行い、常に患者の安全・安楽を優先する。 9. カルテを閲覧する時は、必ず指導者の許可をもらう。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目	小児看護学概論	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	小児看護の概念や成長発達, 各発達段階の健康増進のための必要な看護の基本的知識を学ぶ。また, 小児を取り巻く現代社会の問題について考える機会とする。						
到達目標	子どもの成長・発達を促し, 子どもの健康な生活を維持していくために必要な看護の基本的知識を学ぶ。 1. 子どもの成長・発達について理解する。 2. 子ども健康増進のために必要な看護の基礎的な考え方について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1.家族の特徴とアセスメント						
	2.子どもと家族を取り巻く社会①						
	3.子どもと家族を取り巻く社会②						
	4. 小児看護における倫理①						
	5. 小児看護における倫理②						
	6. 小児看護学における発達論						
	7. 新生児期の身体生理の特徴						
	8. 新生児期の養育および看護						
	9. 乳児期の身体生理の特徴						
	10. 乳児期の養育および看護						
	11. 幼児・学童の身体生理の特徴						
	12. 幼児・学童の養育および看護						
	13. 思春期・青年期の子ども						
	14. 思春期の看護						
	15. 終講試験						
評価方法	筆記試験80% 授業への参加態度(課題提出含む)20%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論／医学書院						
参考書	小児看護技術／メディカ出版 標準小児科学／医学書院 ほか, 随時資料を紹介する。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	小児看護援助論Ⅰ	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	病気や入院が子どもと家族に与える影響について理解し, 発達段階や状況に応じた基本的知識や看護について学ぶ。また, 小児看護に必要な看護技術について理論的に理解し演習を行い, 基礎的看護技術を学ぶ。子どもの病気や入院が, その家族にどのように影響を及ぼすかを理解し, 子どもと家族に必要とされる看護の役割について学習する。						
到達目標	1. 病気や障害をもつ子どもと家族の特徴と看護の役割を理解する。 2. 入院や外来, 在宅などの子どもを取り巻く環境や生活の場について理解する。 3. 災害や虐待など様々な状況にある子どもと家族の看護について理解する。 4. 子どものアセスメントに必要な知識と技術について理解する。 5. 子どもの症状に応じた看護について理解する。 6. 子どもの検査・処置に必要な看護について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響・看護						
	2. 子どもの健康問題と看護						
	3. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(入院・外来)						
	4. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(在宅・災害)						
	5. 子どもの虐待と看護						
	6. 子どものアセスメント①						
	7. 子どものアセスメント②						
	8. 症状を示す子どもの看護①						
	9. 症状を示す子どもの看護②						
	10. 症状を示す子どもの看護③						
	11. 検査・処置を受ける子どもの看護						
	12. 慢性期・急性期・周術期にある子どもの看護						
	13. 終末期にある子どもと家族の看護①						
	14. 終末期にある子どもと家族の看護②						
	15. 終講試験						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論／医学書院						
参考書							
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	小児看護援助論Ⅱ	担当講師	非常勤講師 専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	小児の特徴的な疾患について各疾患とその経過に応じた看護について学ぶ。より実践に即した子ども家族の看護となるように各疾患の病態・症状, 診断, 治療と看護を関連付けて理解を深める。						
到達目標	健康上に問題のある子どもとその家族が抱える問題を明らかにし, 子どもと家族の援助について学習する。 1. 疾患ごとの特徴を踏まえた子どもと家族の看護について理解する。 2. 健康上に問題のある子どもの成長・発達段階と家族の中での位置づけを理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 急性期にある子どもと家族の看護						
	2. 慢性期にある子どもと家族の看護						
	3. 症例を用いての看護の展開① 川崎病						
	4. 症例を用いての看護の展開② ネフローゼ症候群						
	5. 症例を用いての看護の展開③ 小児喘息						
	6. 症例を用いての看護の展開④ 感染性胃腸炎						
	7. 症例を用いての看護の展開⑤ 脳性まひ						
	8. 症例を用いての看護の展開⑥ 医療的ケア児						
	9. 終末期・治癒困難な状況にある子どもと家族の看護						
	10. 血液・造血器疾患をもつ子どもと家族の看護 貧血, 血友病, 造血器腫瘍, 化学療法						
	11. 症例を用いての看護の展開⑦ 白血病						
	12. 症例を用いての看護の展開⑧ 骨肉腫(悪性新生物)						
	13. 免疫・アレルギー性疾患をもつ子どもと家族の看護						
	14. 症例を用いての看護の展開⑨ 若年性突発性関節炎						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論／医学書院						
参考書	小児看護技術／メディカ出版 標準小児科学／医学書院 ほか, 随時資料を紹介する。						
備考	実務経験;看護師として小児看護に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	小児健康状態別 看護	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	3年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	小児の健康レベル(健康・健康障害と回復過程・終末期)を踏まえ、多角的に看護を実践できる。						
到達目標	1. 乳幼児健診で疾病や異常の発生予防(一次予防)と早期発見(二次予防)の保健指導の必要性を理解する。 2. 健康障害にある子どもの顕在的あるいは潜在的な看護問題を明確化したうえで解釈・分析を行い、それらを解決するための適切な方法を考えることができる。 3. 成長・発達段階を踏まえ、術前・術後の特徴や子どもと家族の反応から看護を考えることができる。 4. 薬物療法における子どもと家族への看護師の役割理解 5. 終末期の子どもらしさ、家族らしさを尊重されるケアを学ぶことができる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 現代社会に生きる子どもと家族①						
	2. 現代社会に生きる子どもと家族②						
	3. 現代社会に生きる子どもと家族③						
	4. 現代社会に生きる子どもと家族④						
	5. 健康障害にある子どもの看護問題を明確化し、支援する方法①						
	6. 健康障害にある子どもの看護問題を明確化し、支援する方法②						
	7. 健康障害にある子どもの看護問題を明確化し、支援する方法①						
	8. 健康障害にある子どもの看護問題を明確化し、支援する方法②						
	9. 周術期にある子どもと家族の看護①						
	10. 周術期にある子どもと家族の看護②						
	11. 事例に応じた薬物療法の基礎的知識にもとづいた薬物管理について①						
	12. 事例に応じた薬物療法の基礎的知識にもとづいた薬物管理について②						
	13. 終末期にある子どもへのチームアプローチにおいて求められる看護の役割について						
	13. 事例に応じた終末期にある子どもと家族の理解①						
	13. 事例に応じた終末期にある子どもと家族の理解②						
評価方法	筆記試験50% 事例展開における技術(課題提出含む)40% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論／医学書院						
参考書	小児看護学Ⅰ・Ⅱ／医歯薬出版株式会社 小児看護過程／医歯薬出版株式会社 他, 随時資料を紹介する。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	小児看護学実習	担当講師	専任教員	単位数	2	対象学生	3年次
				時間数	90	時期	通年
				授業方法		臨地実習	
科目概要	<保育園実習> 地域で生活している小児と家族の関わりを通して、小児の成長・発達を促進し発達に応じた援助の方法について学ぶ。 <病院実習> 健康が障がいされた小児とその家族を総合的に理解し、その看護上のニーズに基づいた看護を実践できる。						
到達目標	<保育園実習> 1. 健康な小児の成長・発達を促す支援ができる。 2. 小児の成長・発達に応じた日常生活の援助の方法を理解する。 <病院実習> 1. 患児の成長・発達段階及び家族の状況を理解する事ができる。 2. 患児の特徴・健康障がいの状況を理解し、看護を実施できる。 3. 小児の成長・発達段階・健康障害に応じた日常生活の援助ができる。 4. 小児の安全を守るために必要な援助が理解・実施できる。 5. 小児の継続看護の必要性を述べる事ができる。 6. 小児看護における保健医療福祉チームの役割について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間						
	保育園実習:4日間(10時間/日)						
	病院実習:4日間(10時間/日)						
	学内実習:実習前1日間(10時間/日)						
	2. 実習施設						
	保育園実習:						
	鹿児島市立真砂保育園, 光愛こども園, あさひ保育園, つくし保育園,						
	たけおか保育園, たがみ台保育園						
	病院実習						
	国立病院機構 指宿医療センター, 鹿児島市立病院, 霧島市立医師会医療センター,						
	総合病院 鹿児島生協病院, 社会医療法人天会 鹿児島こども病院						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
評価方法	履修規定に基づく出席状況, 態度, 発表, 実習記録, カンファレンス, レポート, 面談を総合して行う。						
授業に関する留意点	1. 実習前の学内実習では、臨地実習に向けて病院の申し送りノートやホームページなどを活用し病院の特徴を学ぶ。 2. 記録物などは、提出期限を遵守する。 3. 実習に関連する文献の収集を行い自己学習する。 4. 個人情報保護を厳守する。						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目	母性看護学概論	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	人間の性と生殖について学び, 次世代の健全育成を目指す母性看護の意義と役割を理解することができる。女性の身体的・心理的な発達を基盤に女性の健康にあらゆる方向から考えることができる基礎的知識を学ぶ。リプロダクティブヘルスケアの実際を知り, その人らしい生き方を支える看護を考える。						
到達目標	1. 母性看護の主な概念について理解する。 2. 人間の性について理解し, その人らしい生き方を支える看護を考える。 3. 母性看護の動向と法・施策について理解し, その活用の実際を知る。 4. ライフサイクルにおける各期の特徴と看護について理解する。 5. リプロダクティブヘルスに関する概念について学び, 多様性を理解することができる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 母性看護の主な概念 1) 母性とは 2) 母性看護の対象 3) 母子関係と家族の発達						
	2. 母性看護の主な概念 4) セクシュアリティ						
	3. 母性看護の動向と法・施策 1) 母性看護に関する統計 2) 国際社会と母性看護						
	4. 母性看護の動向と法・施策 3) 子育て支援 4) 母性を保護する法則						
	5. 母性看護における倫理 1) 母性の権利と擁護						
	6. 母性看護における倫理 2) 生命倫理 グループワーク						
	7. 女性のライフサイクルにおける看護総論 性と生殖の機能のメカニズム						
	8. 女性のライフサイクルにおける看護各論1(思春期) 1) 身体的特徴と第二性徴 2) 心理・社会的特徴 3) 思春期の健康問題と健康教育(性教育)						
	9. 女性のライフサイクルにおける看護各論2-1(性成熟期) 1) 性成熟期女性の特徴と健康問題						
	10. 女性のライフサイクルにおける看護各論2-2(性成熟期) 1) 家族計画						
	11. 女性のライフサイクルにおける看護各論3(更年期・老年期) 1) ホルモンの変化と更年期 2) 更年期障害と看護/更年期・老年期の女性のかかえる課題						
	12. リプロダクティブヘルスケア 1) 周産期における危機的状況のケア						
	13. リプロダクティブヘルスケア 2) 性暴力を受けた女性に対する看護						
	14. 女性のライフサイクル各期における母子保健施策活用の実際						
	15. 終講試験 まとめ						
	評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%					
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学概論／医学書院						
参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学各論／医学書院 国民衛生の動向／厚生統計協会 母性看護学 I 概論／医歯薬出版株式会社						
備考	実務経験;助産師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	母性看護援助論Ⅰ	担当講師	國生洋子	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	正常妊娠・分娩・産褥の身体的特性と各期の正常経過について理解する。また, 正常経過をたどる妊婦・産婦とその家族, 褥婦および新生児期の母子とその家族に対する看護を実践するための基礎的知識を学び, 個別性を重視した看護を学ぶ。						
到達目標	1. 妊娠の経過と妊婦の看護について理解する。 2. 分娩の経過と産婦の看護について理解する。 3. 産褥の経過と褥婦の看護について理解する。 4. 新生児期の経過と新生児の看護について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケア						
	2. 妊娠前半期の身体的特性 1)妊娠の生理 2)胎児の発育と生理 3)母体の生理的变化						
	3. 妊娠後半期の身体的特性 1)妊娠の生理 2)胎児の発育と生理 3)母体の生理的变化						
	4. 分娩の要素・分娩の経過						
	5. 産褥の経過 産褥の身体変化(退行性変化と進行性変化)						
	6. 新生児の胎外生活への適応過程と生理的变化						
	7. 妊娠期の看護 1)妊婦の心理・社会的特徴, 妊婦健康診査 2)マイナートラブル, 日常生活指導, 保健相談						
	8. 妊娠期の看護 3)親になるための準備教育, バースプラン						
	9. 分娩期の看護 1)分娩第1～4期における産婦と家族への 看護						
	10. 分娩期の看護 2)連続的胎児心拍数モニタリングと 分娩経過図						
	11. 正常経過の褥婦の看護 1)産褥経過, 進行性変化及び退行性変化						
	12. 正常経過の褥婦の看護 2)親子関係確立に向けた援助 3)育児技術習得に向けた援助 4)子育て支援に関する施策の活用						
	13. 新生児の看護 1)出生直後から生後1か月健診までの看護						
	14. 新生児の看護 2)沐浴演習						
	15. 終講試験 まとめ						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学概論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学各論／医学書院						
参考書	母性看護学Ⅱ 周産期各期／医歯薬出版株式会社 写真でわかる母性看護技術アドバンス／インターメディカ						
備考	実務経験;助産師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	母性看護援助論Ⅱ	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	生理的な経過から逸脱している妊娠・分娩・産褥期にある女性の健康問題を理解し, 母子とその家族の看護・保健指導について学ぶとともに, 次世代の健康を視野にいれた援助の必要性についても理解を深める。						
到達目標	1. 妊婦・産婦・褥婦, 新生児のハイリスク状態と主な治療について理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児のハイリスク時の看護について理解する。 3. 予期しない危機的状況にある妊婦・産婦・産褥・新生児の看護について理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 妊娠の異常と看護 1)ハイリスク妊娠を予測する① 妊娠の成立と初期の異常						
	2. 妊娠の異常と看護 2)ハイリスク妊娠を予測する② 妊娠中の合併症						
	3. 妊娠の異常と看護 3)ハイリスク妊娠を予測する③ 異常妊娠(胎児異常・胎児付属物の異常・子宮内胎児発育遅延 血液型不適合 前置胎盤)						
	4. ハイリスク妊婦の看護 (切迫流早産)						
	5. ハイリスク妊婦の看護 (妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病)						
	6. ハイリスク妊婦の看護 (ART後の妊婦・合併症を有する妊婦)						
	7. 分娩の3要素にみられる異常と看護						
	8. 異常分娩時の産婦の看護 (分娩損傷, 産科処置, 分娩時異常出血)						
	9. 特別な支援を要する褥婦の看護① 異常のある褥婦(退行性変化と進行性変化)						
	10. 特別な支援を要する褥婦の看護② 産後うつ						
	11. ハイリスク新生児の看護						
	12. ハイリスク新生児の看護						
	13. 予期しない危機的状況 1) 早期母子分離・愛着形成の欠如など						
	14. 予期しない危機的状況 2) 周産期におけるグリーフケア						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学概論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学各論／医学書院						
参考書	母性看護学Ⅱ 周産期各期／医歯薬出版株式会社 病気がみえるvol. 10産科／株式会社メディックメディア						
備考	実務経験;助産師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	母性健康状態別 看護	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	3年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	母性の看護過程に必要な知識と判断および援助技術の実際を習得し, 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の理解を深めることで, 対象に応じた看護ができる能力を養う。						
到達目標	1. 母子の紙上事例を用いて, アセスメントから計画立案の過程を考える。 2. 妊婦・産婦(胎児を含む)の観察・ケアに必要な看護技術を修得する。 3. 褥婦と早期新生児の観察の要点を説明し, 看護技術を修得する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 対象をウェルネスの視点で観る。						
	2. 妊婦(胎児を含む)・産婦・褥婦のアセスメントに必要な観察視点と看護技術 ①						
	3. 妊婦(胎児を含む)・産婦・褥婦のアセスメントに必要な観察視点と看護技術 ②						
	4. 母子の事例を用いて, アセスメントから産褥期を予測する(妊娠・分娩期のアセスメント)						
	5. 母子の事例を用いて, ウェルネスの視点で期待する結果を導く(関連図)						
	6. 母子の事例を用いて, ウェルネスの視点で期待する結果を導く(期待する結果)						
	7. 看護の実践(看護計画を立案する)						
	8. 保健指導を計画する。						
	9. 保健指導を実践する。(ロールプレイ)						
	10.緊急帝王切開術を受ける産婦の看護を考える						
	11. ハイリスク事例の看護展開① 緊急帝王切開術を受けた対象の看護(情報の整理・アセスメント)						
	12. ハイリスク事例の看護展開② 緊急帝王切開術を受けた対象の看護 (計画の立案)						
	13. ハイリスク事例の看護展開③ 緊急帝王切開術を受けた対象の看護 (確認試験)						
	14. ハイリスク事例の看護展開③ 緊急帝王切開術を受ける対象の看護 OSCE						
	15. ハイリスク事例の看護展開③ 緊急帝王切開術を受ける対象の看護 OSCE・リフレクション						
評価方法	提出物30%、OSCE(学力試験30% 技術30%)、授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学概論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学各論／医学書院						
参考書	母性看護学Ⅱ周産期各期／医歯薬出版株式会社 ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図／医学書院 根拠がわかる母性看護過程／南江堂						
備考	実務経験;助産師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	母性看護学実習	担当講師	専任教員	単位数	2	対象学生	3年次
				時間数	90	時期	通年
				授業方法		臨地実習	
科目概要	正常から逸脱することなく妊娠・分娩が正常に経過し、対象が健康を維持できるように援助していくのかウェルネスの視点で看護していくことの実践を通して学ぶ。生命の誕生の尊さや喜びを実感し、看護者としての情意を育む機会とできることを期待している。また、社会資源の活用について学び、子育て支援拠点施設での実習を通し、切れ目のない継続看護の重要性を知る。						
到達目標	1. 母性各期の特徴及び発達課題を理解し、母性のライフサイクルの中にある対象を捉えることができる。 2. 妊産褥期の対象とその家族、胎児及び新生児への看護の必要性を理解し、実践する。 3. セルフケア能力の高い対象に対して、自立を目指した保健指導や教育的関わりが行える。 4. 母性とその家族を取り巻く社会を理解する。 5. 自らの生命と向き合い、自己の親性を高めていくことができる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間						
	<母性看護学実習;生命の育みを支える実習>						
	病院実習;8日間(9時間/日)						
	地域子育て支援拠点事業実習;2日間(9時間/日)						
	2. 実習施設						
	病院実習;医療法人光智会 産科婦人科のぼり病院						
	病院実習;公益財団法人慈愛会 今村総合病院						
	施設実習;鹿児島市こども政策課 すこやか子育て交流館 りぼんかん,						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
	評価方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面談を総合して行う。					
授業に関する留意点	1. 学内実習では、臨地実習に向けて不明点のないように学ぶ。 2. 記録物などは、提出期限を遵守する。 3. 実習に関連する文献の収集を行い自己学習する。 4. 自己のコミュニケーションの傾向を知り、対象や施設スタッフなどとコミュニケーションを十分に図り、相互関係を深める。 5. 個人情報保護を厳守する。 6. 生命誕生の尊さや喜びを実感し、看護者としての情意を育み、人間的な成長に繋げる機会とできるように謙虚な態度で実習に臨む。 7. 性と生殖に関わる実習であることを理解し、対象のプライバシーの保持に努める。						
備考	実務経験;助産師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目	精神看護学概論	担当講師	植村 彰 他	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	30	時期	後期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	精神看護の概要について, 援助関係の構築, 治療的環境, 多職種間の連携, 精神障害者福祉の観点から理解する。						
到達目標	1. 精神保健看護の概要(目的・対象・機能)を理解する。 2. 心の健康と発達課題について理解し, 心の健康について考える。 3. 精神保健看護の歴史変遷を学び, 人権や倫理について考える。 4. リエゾン看護の役割や機能について理解する。 5. 精神保健福祉法の背景と経緯について理解する。 6. サービス提供の場と機能について知り, 看護師の役割について学ぶ。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 心のはたらき						
	2. 精神看護学の目的と意義, 精神看護の学の基本的な考え方						
	3. 心の働きと脳, 心のしくみと人格発達						
	4. 心の発達						
	5. 危機介入とストレス論, 関係の中の個人						
	6. 精神を病むことと生きること ・症状論・状態像						
	7. 精神障害の診断と分類						
	8. 精神疾患に対する治療①						
	9. 精神疾患に対する治療②						
	10. 精神保健看護の歴史的変遷①						
	11. 精神保健看護の歴史的変遷②						
	12. 精神保健看護の歴史的変遷③						
	13. 社会の中の精神障害						
	14. 精神障害と法制度						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎／医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開／医学書院						
参考書							
備考	実務経験;医師として医業に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	精神看護援助論Ⅰ	担当講師	大田 真司	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	精神看護の実践の基礎となる対象理解のための理論を学ぶ。また, 実践の場で出会う主な疾患とその治療法, 看護ケアを行うためのアセスメントの方法について理解を深める。						
到達目標	1. 心に障害を持つ対象を理解し, 対象がおかれている状況と健康段階に応じた援助を理解する。 2. 各種の治療方法における看護師の役割を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. ケアの人間関係						
	2. ケアの方法						
	3. 精神科の看護師の役割						
	4. 入院の意味, 入院治療の目的						
	5. 入院治療と看護の展開, 患者のアセスメント						
	6. 行動制限						
	7. 治療的環境						
	8. 安全をまもる, 緊急事態に対処する						
	9. 身体的をケアする, 有害反応						
	10. 有害反応, 気分障害						
	11. 身体合併症, DVD						
	12. 看護の展開① 統合失調症						
	13. 看護の展開② 発達障害他						
	14. サバイバー, パーソナリティ障害						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験90% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎／医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開／医学書院						
参考書							
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	精神看護援助論Ⅱ	担当講師	川畑 孝美	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	地域における精神障がい者の生活について知り, 看護師が担う役割を理解することができる。						
到達目標	1. 地域で生活している精神障がい者の主な精神疾患, 障がいの特徴について理解する。 2. 精神障がい者が地域で生活するために必要となる精神保健医療福祉に関する法制度や社会資源について知り, 看護師が担う役割を理解する。 3. 精神保健医療福祉に関する多職種連携について知り, 看護師が担う役割を理解する。 4. 地域で生活している精神障がい者の援助・支援の実際について知り, 看護師が担う役割を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 地域で生活している精神障がい者の主な精神疾患, 障がいの特徴について						
	2. 地域で生活している精神障がい者にとっての法律の意味と看護師が法律を活用することで 果たせる役割について						
	3. 地域で生活している精神障がい者を支えるシステムと社会資源①						
	4. 地域で生活している精神障がい者を支えるシステムと社会資源②						
	5. 地域で生活している精神障がい者を支えるシステムと社会資源③						
	6. 「治癒」から「回復」へ リハビリテーションからリカバリーについて						
	7. 地域で生活している精神障がい者の主なリカバリーと看護の役割について① ソーシャルスキルトレーニング (SST)						
	8. 地域で生活している精神障がい者の主なリカバリーと看護の役割について② 認知行動療法 (CBT) マインドフルネス認知療法 (MBCT)						
	9. 地域で生活している精神障がい者を支える多職種・多組織チームについて						
	10. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割① 地域包括ケアシステムの概要と考え方、社会資源の活用を支える支援体制						
	11. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割② 病院から地域への生活移行のための支援について						
	12. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割③ 訪問看護について						
	13. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割④ 家族への支援について						
	14. ソーシャルインクルージョン (新しい福祉社会への道) について						
	15. 終講試験・まとめ						
評価方法	筆記試験80% 演習の課題10% 授業への参加態度10%						
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎／医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開／医学書院						
参考書							
備考	実務経験;看護師資格をもち豊富な経験をもとに講義を行う。						

専門分野(精神看護学)

授業科目	精神健康状態別看護	担当講師	専任教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法	講義, 演習等		
科目概要	身体・精神の疾患がお互いに健康に及ぼす影響を学び, 精神障害によって日常生活に支障をきたした人に対して, 精神看護学の知識と技術を用いて, 精神的健康を可能な限り回復し, 人間的尊厳をもって, その人が望む生活をその人らしく送れるよう援助ことを学ぶ。更に統合失調症の事例を通して状態や治療における回復支援に向けたPBLやOSCEによる演習から看護実践能力を養う。						
到達目標	1. 身体・精神疾患が健康に及ぼす影響と, 精神障害が日常生活に及ぼす影響を学ぶ。 2. 精神疾患の症状に対する看護と, 対人関係の技術と精神状態をアセスメントする技術を学ぶ。 3. 事例を展開することで, 対象が臨むその人らしく社会生活を送ることが出来る援助を導き出すことができる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. ケアの人間関係(関係をアセスメントする)プロセスレコードの活用, 異和感の対自化						
	2. プロセスレコードの活用(ロールプレイング, カンファレンス)						
	3. プロセスレコードの活用(ロールプレイング, カンファレンス)						
	4. 精神科・身体科の疾患が健康に及ぼす影響, リエゾン精神看護とその活動						
	5. リエゾナーズの活動の実際(事例を通して, 動画含む)						
	6. 災害時のメンタルヘルスと看護(災害時における心のケア)						
	7. 災害時のメンタルヘルスと看護(災害にみまわれた人の心理とケア・支援者のメンタルヘルスとケア)						
	8. 精神看護学の技術と技法(精神状態をアセスメントする技術)						
	9. セルフケアへの援助						
	10. 看護計画の実際						
	11. 精神疾患急性期の患者の看護(統合失調症急性期)OSCE・リフレクション						
	12. 精神疾患急性期の患者の看護(統合失調症急性期)OSCE・リフレクション						
	13.看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス						
	14.看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス(メンタルヘルスを考える)						
	15.まとめ・終講試験						
評価方法	筆記試験50%、提出物10%、授業態度10%、OSCE30%(学力試験40%、技術50%、態度・リフレクション10%)						
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎／医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開／医学書院						
参考書	リエゾン精神看護 患者とケアとナース支援のために／医歯薬出版 精神看護学 第2版 学生一患者のストーリーで綴る実習展開／医歯薬出版						
備考	技術経験録を活用し対象に必要な技術の演習を自主的に進めてください。 実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	精神看護学実習	担当講師	専任教員	単位数	2	対象学生	2年次
				時間数	90	時期	後期
				授業方法		臨地実習	
科目概要	精神に障害をもつ受け持ち患者への理解を深め、障害の段階に合わせた援助方法を学び、人間関係構築の基礎的能力を養う。						
到達目標	1. 精神に障害があり、医療及び保護が必要な場で生きる人を理解する。 2. 精神に障害があり、医療及び保護が必要な人がその人らしく生きるために必要な看護の役割を理解し、必要な看護を実践する。 3. 精神に障害のある人との関わりをとおり、精神に障害のある人との関係性を自己洞察する。 4. 精神の障害とともにその人らしく暮らしている場で、必要な看護の役割を理解する。 5. 精神の障害とともにその人らしく暮らす人を支える多職種の役割と連携を理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間 病棟実習： 4日間（10時間/日）						
	施設実習： 3日間（10時間/日）						
	学内実習 実習前・実習後；各1日間（10時間/日）						
	2. 実習施設 鹿児島県立始良病院						
	医療法人共助会 三州脇田丘病院						
	医療法人有隣会 伊敷病院（デイケア、支援センターJOE）						
	株式会社 インビクト（就労継続支援事業所ひとつ）						
	（ワークサポートひとつ）						
	（グループホーム アンジュスマイル）						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
	評価方法	履修規定に基づく出席状況、態度、発表、実習記録、カンファレンス、レポート、面談を総合して行う。					
授業に関する留意点	1. 学内実習では、臨地実習に向けて不明点のないように学ぶ。 2. 記録物などの提出期限を遵守する。 3. 実習に関連する文献の収集を行い自己学習する。 4. 自己のコミュニケーションの傾向を知り、対象や病棟スタッフなどとコミュニケーションを十分に図り、相互関係を深める。 5. 個人情報保護を厳守する。						
備考	実務経験；看護師として業務に携わり、豊富な経験をもとに指導を行う。						

授業科目		看護管理と 医療安全	担当講師	三島 真美 田畑千穂子	単位数	1	対象学生	3年次
					時間数	30	時期	通年
					授業方法		講義, 演習等	
科目概要		看護管理の概念とマネジメントの基礎を理解し, 組織の中での看護師の役割を理解できる。また, 医療安全では, 対象の生命を守るための「安全に看護を提供する方法」を学び, 「看護師としての責任」があることを, 臨床で起こった事故事例をもとに個人および組織として理解できる基礎的能力を養う。						
到達目標		1. 看護管理の概念とマネジメントの基礎を理解する。 2. 病院組織の中で働く看護師の役割と多職種との協働について理解する。 3. 医療システムの中の危険要因を知り, 事故防止のための知識・技術を修得する。 4. 実践に即した看護技術演習を行うことで, 専門職としての責任感・倫理観を身につける。						
授業計画	単元	学 習 内 容						
	看護管理 (15時間)	1. 看護とマネジメントの定義						
		2. 看護ケアのマネジメント(医療・看護の質保証)						
		3. 看護職のキャリアマネジメント(人材育成・活用)						
		4. 看護サービスのマネジメント						
		5. 看護を取り巻く諸制度						
		6. スタッフナースに求められる管理的役割						
		7. マネジメントに必要な知識と技術						
		8. 終講試験・まとめ						
	医療安全 (15時間)	9. 事故防止の考え方を学ぶ						
		10. 診療の補助の事故防止①(注射・輸血・内服与薬業務と事故防止)						
		11. 診療の補助の事故防止②(経管栄養(注入)業務と事故防止)						
		12. 療養上の世話の事故防止						
		13. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因						
		14. 医療安全とコミュニケーション						
		15. 組織的な安全管理体制への取り組み						
		16. 終講試験・まとめ						
評価方法		筆記試験100%(看護管理50%、医療安全50%) *評価は, 看護管理と医療安全の合計とする。						
教科書		系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践[1] /医学書院 系統看護学講座 専門分野 医療安全 看護の統合と実践[2] /医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ /医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 /医学書院						
参考書		ナーシンググラフィカ 医療安全 /メディカ出版						
備考		実務経験;認定看護管理者として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。 実務経験;医療安全管理者として業務に携わり, 豊富な経験を基に講義を行う。 実務経験;看護師として業務に携わり, 医療安全に関する講義を行う。						

授業科目	国際看護と 災害看護	担当講師	山之内千絵 上野佑太	単位数	1	対象学生	3年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要		災害看護は看護の原点であることをテーマに, 被災地での災害サイクルに応じた看護活動や役割について学ぶ。また, 高齢者や子ども・妊産褥婦・障害者に加え継続的な治療を必要とする看護の意義と方法(演習)について学ぶ。国際看護では, 海外をフィールドとした看護活動から日本国内での外国人患者の対応まで, これからの日本の医療を学ぶ。					
到達目標		1. 災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する。 2. 災害サイクルに応じた災害看護の役割と看護を理解する。 3. 現代社会における国際看護の必要性と役割について理解する。 4. 国際社会における多様な看護の対象を考慮した国際看護活動を理解する。					
授業 計画	科目	学 習 内 容					
	災害 看護 (15時間)	1. 災害看護の歩み, 災害医療の基礎知識					
		2. 災害の種類と特徴					
		3. 災害時の支援体制と医療体制					
		4. 災害サイクルに応じた看護					
		5. 災害とこころのケア					
		6. 災害救護シミュレーション(演習)					
		7. 災害救護シミュレーション(演習)					
		8. 終講試験・まとめ					
	国際 看護 (15時間)	1. 国際看護学とは					
		2. グローバルヘルス					
		3. 国際協力のしくみ					
		4. 文化を考慮した看護					
		5. 国際看護活動の展開過程					
		6. 開発協力・国際救援と看護					
		7. 21世紀の国際看護の課題					
		8. 終講試験・まとめ					
評価方法		筆記試験80%(災害看護40%、国際看護40%) 演習10% 授業への参加態度10% *評価は, 災害看護と国際看護の合計とする。					
教科書		系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践〔3〕／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕 看護学概論／医学書院 系統看護学講座 基礎分野 文化人類学／医学書院					
参考書		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生／医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕 精神看護の展開／医学書院					
備考		実務経験;看護師資格をもち国際協力活動や国内外における救急・災害現場における救命処置等の経験をもちに講義・演習を行う。 実務経験;救命救急士資格をもち救命処置等の経験をもちに講義・演習を行う。					

授業科目	キャリア論Ⅰ	担当講師	専任教員 他職種教員	単位数	1	対象学生	1年次
				時間数	15	時期	前期
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	キャリア理論を学びキャリアデザインの基本的な意義と方法について学ぶ。また, 看護師のキャリアデザインの実現に向けたワークを通し, 看護専門職の形成に必要な学習計画を立案(パーソナルポートフォリオの作成)・評価の過程から主体性を育む能力開発の方法を学ぶ。また, 医療職の一員として他職種と交流を図り看護職の役割を發表することから協働の必要性和学ぶ楽しさを実感できる。						
到達目標	1. キャリアマネジメントの必要性を理解する。 2. 自ら学びを実現するキャリア形成の実施・考察できる。 3. 他職種連携教育を通して協働の意義を共有できる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 看護師のキャリアデザイン・理論, ポートフォリオの運用について						
	2. キャリアプランを考えよう(キャリアデザインワーク①)						
	3. キャリアプランを考えよう(キャリアデザインワーク②)						
	4. キャリアの方向性と実践能力の向上にむけて(知識・技術・態度の形成支援)						
	5. 多職種連携・協働の意義, 専門職連携教育について						
	6. 多職種連携・協働の実際「他職種のなかの看護職の役割」演習						
	7. 実力試験						
	8. キャリアプランの評価・年度課題の明確化						
評価方法	実力試験40%(実力試験の評価6割以上;単位修得に必須となる) 演習40% 提出資料10% 授業への参加態度10% 総合評価とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕 看護学概論／医学書院						
参考書	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論／医学書院(第3部;保健医療における人間関係)						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	キャリア論Ⅱ	担当講師	専任教員 他職種教員	単位数	1	対象学生	2年次
				時間数	15	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	能力開発に向けた学習プロセスを俯瞰し, 自己効力感を維持・向上できるよう心理学を通して自信や有力感について学ぶ。また, これまでの授業・演習・実習における成果をナラティブに基づき現在の看護観を明らかにし, 疑問や課題について感じた現象から看護研究の基礎を学ぶことで実践の質向上に必要な探求心を高める。医療従事者を目指す一員としても専門職連携教育に参加することで, 保健医療福祉分野における地域包括ケア時代に対応できる看護職の役割を理解できる。						
到達目標	1. キャリアデザインの評価・再構成から成果を考察できる。 2. 看護における研究の意義や方法を理解する。 3. 流動的に医療福祉分野で活躍できる多職種連携活動が理解できる。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. キャリアデザインの評価・再構成 (パーソナルポートフォリオの活用)						
	2. キャリアプランの成果を考えよう(看護研究の意義・方法)						
	3. キャリアプランの成果を考えよう(看護研究 倫理・文献の活用方法)						
	4. キャリアの方向性と実践能力の向上にむけて(自己効力感の維持・向上)						
	5. 多職種連携・協働活動を考えよう「地域包括ケア時代に向けて」						
	6. 多職種連携・協働演習「地域を見(看・診)れる医療者になろう」						
	7. 実力試験 看護専門職に必要な知識の分析						
	8. キャリアプランの評価・課題の明確化						
評価方法	実力試験40%(実力試験の評価6割以上;単位修得に必須となる) 看護研究20% キャリア論20% IPE 20% 総合的に評価する。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕／医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究／医学書院						
参考書	看護覚え書 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

授業科目	キャリア論Ⅲ	担当講師	専任教員 他職種教員	単位数	1	対象学生	3年次
				時間数	30	時期	通年
				授業方法		講義, 演習等	
科目概要	看護基礎教育における集大成として、キャリアデザインに描いた達成状況をOSCE(客観的臨床能力試験)・IPE(多職種連携教育)・看護研究・学力試験などから得られた成果を、過去・現在・卒業後の継続的な能力開発にも向けて、知識・技術・態度を総合的に評価・改善策を明らかにする。また、地域包括ケア時代に向けて対象者のニーズ、QOLの獲得に自分の役割を適切に果たせるよう、連携して働く多職種との協働に必要な看護実践力の向上を目指す方法を理解できる。						
到達目標	1. 実践した看護を評価・考察し看護の質向上に向けた発表から自己の看護観を深めることができる。 2. 流動的に医療福祉分野で活躍できる看護実践能力の開発方法を理解する。 3. 看護職として社会で仕事していくためのキャリアマネジメントを理解する。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. キャリアデザインの評価・再構成(パーソナルポートフォリオの活用)						
	2. キャリアプランの成果を考えよう①(データ収集・分析;量的・質的研究)						
	3. 実力試験① 5月						
	4. キャリアプランの成果を考えよう②(研究計画書の書き方, 倫理面への配慮)						
	5. キャリアプランの成果を考えよう③(ケーススタディの目的と特徴・進め方)						
	6. OSCE(客観的臨床能力試験)① シナリオ提示						
	7. OSCE(客観的臨床能力試験)② シナリオ学力試験・演習						
	8. OSCE(客観的臨床能力試験)③ シナリオの実践・リフレクション						
	9. 複数患者の受持の援助						
	10. 実力試験② 11月						
	11. 多職種連携・協働活動を考えよう「事例検討;協働演習テーマ検討」						
	12. 多職種連携・協働演習;模擬担当者会議						
	13. 実力試験③ 1月						
	14. キャリアプランの成果を考えよう④(ケーススタディまとめ)						
	15. キャリアプランの評価・課題の明確化						
評価方法	実力試験40%(実力試験評価;6割以上が単位修得に必須となる) OSCE 20% 看護研究20% IPE20% 総合的に評価する。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕／医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究／医学書院						
参考書	国家試験問題集						
備考	実務経験;看護師として業務に携わり, 豊富な経験をもとに講義を行う。						

専門分野(看護の統合と実践)

授業科目	統合実習	担当講師	専任教員	単位数	2	対象学生	3年次
				時間数	90	時期	通年
				授業方法		臨地実習	
科目概要	医療チームの看護師として役割を果たすために必要な、看護の複雑性・継続性・組織性を身につけ、就職に向けた自己課題を明確にするとともに、臨床実践能力の成長を確認する。						
到達目標	1. 看護マネジメントの実際を知り、看護管理、および医療安全管理の重要性について理解する。 2. 看護チームのリーダーシップおよびメンバーシップの実際を理解する。 3. 複数の患者の受け持ちや多重課題において優先順位や判断根拠を考え、対象に必要な看護マネジメント「その人らしく生きる」を支えるための看護実践ができる。 4. 看護実践をとおして、看護職の役割や責任、倫理について考え、将来目指す看護師像に近づけるように、自己の課題を明確にする。						
授業計画	学 習 内 容						
	1. 実習時間 病院実習 8日間（10時間/日）						
	学内実習 実習前1日間（5.0時間）						
	実習後1日間（5.0時間）						
	2. 実習施設 公益社団法人鹿児島共済会 南風病院，						
	鹿児島厚生連病院，						
	社会医療法人緑泉会 米盛病院，						
	社会医療法人青雲会 青雲会病院						
	3. 詳細は実習要領参照のこと						
評価方法	履修規定に基づく出席状況，態度，発表，実習記録，カンファレンス，レポート，面談を総合して行う。						
授業に関する留意点	1. 守秘義務の遵守につとめる。 2. 時間管理，健康管理をする。 3. 挨拶はきちんとし，明るく積極的な態度で実習に臨む。 4. 各施設内で指導された約束事は遵守する。 5. 曖昧な受け答えはせず，指導者に確認しながら業務調整を行う。 6. 良識と責任を持って行動する。						
備考	実務経験；看護師として業務に携わり，豊富な経験をもとに指導を行う。						

学 校 法 人 南 学 園
鹿 児 島 医 療 福 祉 専 門 学 校
看 護 学 科

〒890-0034

鹿 児 島 市 田 上 八 丁 目 21 番 3 号

TEL 099-281-9917 (直通)

FAX 099-281-9976